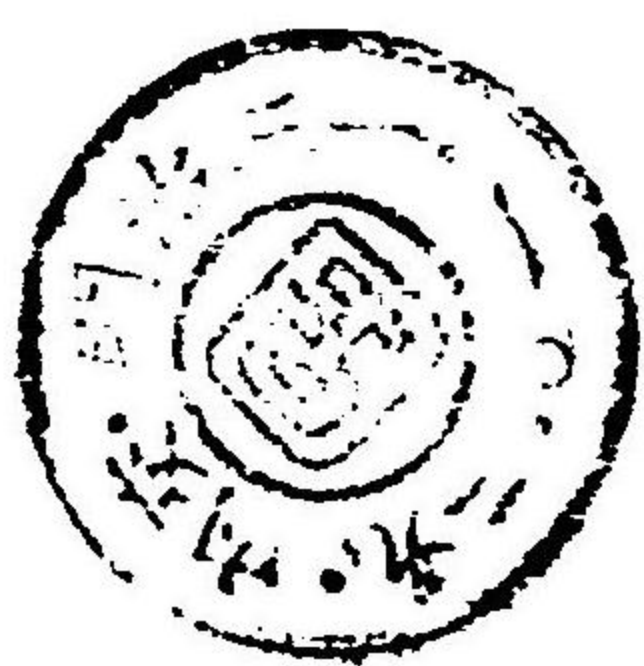


89-100

萩島由太郎著

商標學大意

東京 同文館





## 商品學大意序

商品の學たる未だ曾て之を科學的に研究したるものあるを聞かず然るに本邦の地勢たる通商交易上最も良好なる位置にありて西は一葦帶水を隔て、支那の大國に隣し東は遠く海洋を越へて米國の沃野に面し南に濠州を擁し北に西伯利及朝鮮を控へ四通八達の要衝に介在するは實に天與の恩賜と謂ざる可らず故に現今商業を以て宇内に冠たる歐洲の大英國と對稱して本邦は東洋の英國を以て目せらる然り而して其版圖たる固より英國の領土に比す可きにあらずと雖も國土の狭小なるに比し産物の種類に富めるの一事は蓋し英國に超越せり之を以て此等饒多の産物を世界の市場に搬出し彼此の便益を圖らば富圃の基竝に開け益々本邦をして東洋第一の貿易國たるの實あらしむるは蓋し易々たるのみ然るに今日實際の有様を顧みれば商業教育



の進歩發達あるに拘らず其目的物たる商品即ち饒多の産物中僅に或る二三品を除きては尙ほ未だ世界の市場に名譽を博すると能はず而して然る所以のものは惟ふに學理上より商品を解説し科學的順序を立て他の諸學科と相須ち商業教育に此の種の新智識を鼓吹せざるに歸因せずんはある可らず抑も商品の學科たるや他の諸學科と關係すると甚だ親密にして且つ其範圍頗る廣濶なれば事實を總括するの勞太だ多く隨て之を學生に授くるに當り錯雜紛亂の憂あるを免れず然れども商業教育の一學科として學生に之を授くるには必ず學理と實際とに相須つ所の科學的組織なかる可らず是商品學の由て起りたる所以なり余不肖當時乏を商業教育の職に承く而して本學科を教授すると多年間日夜焦心苦慮種々の方法を案出し以て學生を導きたり然と雖も範圍の頗る廣大なると物品の多種多様なるにより常に所思の萬分一を盡さず甚以て遺憾とせり依て客年其組織方法を革め先づ

本學科の要領を解き其方針を示さんと欲し本書を草し之を教授に用ひたると茲に年餘漸く學科の全班を盡すを得たり名けて商品學大意と云ふ勿論本書は商品學の通論に過ぎざれば各品別に就ては別に各論と爲し期を改めて授けたるに其基礎既に確立したる後なりければ其進歩甚だ迅速にして稍々余が希望を達するを得たり依て余は之を江湖に示さんと欲し茲に刳厥に上すに至れり若し本書を以て商品學教授の一助となし其効果を奏するとを得て本邦の産物を世界の市場に紹介するの階梯たるを得ば以て國富の増進を見る事を得ん蓋し商業の目的物たる各種の商品事項に付完全なる智識を具備し然る後天惠の好位置を利用せば則ち始めて商業家の志望を貫徹し通れ商業教育の良果を結ぶとを得ん歟唯だ余や謏劣寡聞書中或は誤謬脱漏の點あらん冀くは大方諸君幸に斧正を賜らば幸甚

明治卅一年十月一日

著者誌す



## 凡例

一、本書は初等商業教育教科用として編纂著述したり従來各地方商業學校に於て教授し來りたるは概ね各商品別に係り隨て之に要する教科用書は既に一二の出版あるを見たり然れども教授の順序上商品全体に通ずる教科書あるを聞かず著者常に之を憂ひ經驗に基き之が缺乏を補わん爲め分類配置等の方法を改め以て此書を著はしたれば趣向自ら從來の方法と相違せりされば各商品別は之を採らず専ら取引上買賣の目的物として研究查察するに具備すべき各事項を總括して之を通論せり此目的たる各商品別に之を教授するに先ち商品全般の概念を學生の腦裏に印象せしめ置き然る後ち徐ろに各品に區分して教授するは教授の趣旨に適合するを以て最も効果あるを信したれば著者の意思により順



序排列等を變更したる所以なり

一、本書に論ずる所の事實は總て本邦慣行の事項に採れりされば之を實際に應用するを得べし是著者が曾て運送事業に識を採り現品の取扱に従事し長野青森神戸東京等の各地にて日々取扱たる經驗と商業學校に教務を採るの傍ら取調べたる事實とを綜合布衍したるものなれば當に書籍の記載より拔萃編述したるに比すれば實業教育に施して裨益あるべきは聊か自稱するを憚からざるなり

一、本書中各商品の産出高及び輸出高等の統計數量は最近の統計乃ち廿八年度を基とし他は概ね五ヶ年乃至四ヶ年の平均額を掲載せり是其確實なるを表明する微意に出たるなり而して右統計數量及金額は内閣統計年鑑農商務統計表外國貿易年表并に其他の報告書類を主とし尙ほ外國貿易概覽等より之を拔萃せりされど

完全は到底期し難し是れ我統計の不備なる止むを得ざるに出でたるものなれば唯だ其一般を窺ふに過ぎず而して輸出高に關する數は内國産出高と對照し易からしめん爲め單位を異にせる分は總て之を換算せり即ち金圓に拘るものは其當時の相場を基として算出せり例へば葉烟草一貫目の相場を八圓廿錢となし又は米一擔を四斗二升となしたるが如し讀者了焉

一、本書の分類配置は著者の隨意に係るが故に或は各地方の状況により不必要の章あるの感あらんも知る可らず其一例を擧ぐれば海關稅の如し是等は貿易品にのみ關係するなれば單に内地の取引に在ては殆ど蛇足の思あるべし然れども熟考する時は海關稅の多少は間接に内地商品相場の上に影響を及ぼすと尠からずされば商業家の常に思を致すべきを信じ之を記述せり如斯は獨り海關稅に留まらず他も亦同一の理由に基き區分排列を爲したる

凡例



ものあり讀者了焉

一、本書記載する所往々議論に渉る個所なき能はず是れ蓋し當時商品學の教授方法區々に分れ其間自然脱漏の結果實際上商業家の商品事項中等閑に附し顧みざりし形跡歴然たるものあり即ち商品の性質の如き是れなり之を以て著者は特に茲に思を致し各節目中注目留意すべきの事實と欠點とは之を摘記し愚見を附加したれば本書は常に教科用のみならず商業家の子弟に於ても亦實務上の好參考に供するを得べし

一、本書記載の例證にして其數稍々少きは教授を掌るものをして適宜増補せしむべきの微意なると且つ後年各品別を授くるに際し重複の患なからしめんが爲めなり之を以て殊に省畧したるの廉尠からず且又ある章によりては説明を缺くが如きの感あるは各地の状況に應じて敷衍の餘地を存せんが爲め更に細説を避け

たる所以なり教務に従事する人希くは微意の存する所を加味せられんとす

一、本書は元來教科用の目的なるが故に全編を十章に分ち尙ほ章を節と爲し節を細引したり之を以て毎日の授業一時間に一節つゝを授くるとせば合計二十七時間にて教授し盡すの豫定なり然れども各節俱に文章の長短あるを免れざれば一年三十六周にて毎周一時間の割合に配當せり故に其長きは二時間乃至三時間に分割し短なるは豫定時間に終らば半年にして完了の仕組なり而して現今各地方商業學校にて實施し居る授業時間は大抵毎周二時間つゝにて二ヶ年の課程なれば残り一年半間に於て各品別の教授を授くる時は充分の効果を得べしと信ず即ち此授業法たる著者の實驗に基き敢て保證する所なり

一、本書中秤量鑑定法の部に於て特に詳細の説明を加へたる所以は



此方法たる正式鑑定法中最も施行し易き方法なるを以て商業全般に普及せしめんとの微意に出でたるなり且又トムソン氏の熱量計に於けるも此意に外ならず

# 商品學大意目次

## 總論

商業の定義.....一

商品學の定義.....三

商業と商品學との關係.....四

## 第一章 商品學と他學科との關係.....八

第一節 商品學と博物學との關係.....八

第二節 商品學と理化學との關係.....九

第三節 商品學と統計學との關係.....一一

第四節 商品學と地理學との關係.....一三

第五節 商品學と經濟學との關係.....一九

目次



第六節 學科關係の結論……………二

第二章 各種商品の名稱……………三

第一節 礦物屬商品名稱……………三

- 第一目 飲食物類……………第二目 藥材製藥品及染料……………第三目 油類……………第四目 金屬及金屬器類……………第五目 土石及土石器類……………

第二節 動物界商品名稱……………三五

- 第一目 食用類……………第二目 藥材製藥品類……………第三目 油及肥料類……………第四目 蠶絲蠶綿類……………第五目 絹布及裝飾品類……………第六目 皮毛甲角類……………

第三節 植物界商品名稱……………三六

- 第一目 穀物及飲食物類……………第二目 藥材製藥品及染料……………第三目

- 草木竹紙類……………第四目 油及臘類……………第五目 布帛及裝飾品類……………

第三章 各種商品の種類別……………三三

第一節 各種類の生ずる理由……………三三

第二節 各種類名稱別……………三五

- 第一 品位上の種類……………第二 性質上の種類……………第三 科學上の種類……………第四 收穫上の種類……………第五 産地上の種類……………第六 俗稱上の種類……………第七 形色上の種類……………第八 用途上の種類……………第九 製造上の種類……………

第四章 各種商品の性質及其用途……………四三

第一節 各種商品の性質……………四三

第二節 各種商品の用途……………四八

目次



第三節 各種商品性質研究の必要……………三

第五章 各種類商品の所在地……………五七

第一節 礦物類所在地……………五八

第二節 動物類所在地……………六〇

第一 家畜 第二 家禽 第三 爬虫 第四 魚

介類

第三節 植物類所在地……………六一

第一 農産植物 第二 森林植物 第三 水産植物

第四節 各種製造品所在地……………六二

第六章 各種商品の生産高及輸出高……………六九

第一節 各種商品の生産高増減の理由……………七〇

第一 礦物生産高 第二 植物生産高 第三 動物

生産高

第二節 各種商品輸出高増減の理由……………七二

第一 礦物輸出高 第二 植物輸出高 第三 動物輸出高

第七章 各種商品製造法……………七九

第一節 手工製造法及用器製造法……………八一

第八章 各種商品の鑑定法……………八七

第一節 略式鑑定法……………八八

第一 肉眼鑑定法 第二 臭味鑑定法 第三 音響

鑑定法 第四 觸感鑑定法 第五 鏡柄鑑定法 第

六 試用鑑定法

目次

五



第三節 正式鑑定法……………一四五

第一 秤量鑑定法 第二 特定器械鑑定法 第三

藥品鑑定法 第四 顯微鏡鑑定法 第五 分拆鑑定法

第九章 各種商品の荷造法……………一五九

第一節 荷造法の要旨……………一六二

第一 各種の條件 第二 荷造費の概算

第二節 荷造の方法……………一七一

第一 パラ荷積 第二 叭入及筵包法 第三 俵

入法 第四 箱詰法 第五 袋入及紙包法 第六

樽入法 第七 壺入法 第八 布包法 第九 籠

詰及壘詰法 第十 結束及籠締法

第十章 各種商品の相場及び海關稅……………一七九

第一節 相場高低の理由……………一八二

第二節 海關稅……………一八五

第一 輸出稅 第二 輸入稅 第三 運上目錄

第四 輸入物品從量稅目

目次終

目次



# 商品學大意

荻嶋由太郎 著述

## 總論

商業の定義

商業の定義 商業とは營業の目的を以て貨物を買賣し若くは其媒介を爲して生業と爲す人類行爲の全般を云ふ而して此等の業務に従事するものを商業家と名く故に商業家は廉價なる貨物を購買し之を高價に販賣して以て生業と爲さざる可らず即ち其働作たるや貨物の需用者に向ては時と場所とに應じ最も便利なる方法により分配を掌り其間に於て利分を收得するに在り故に利益を目的とせずして爲したる取引若くは物々交換の如きは目して商業と稱す可らず  
曾て世運の未だ進歩せざるに當りてや物々交換の法各所に行はれ各

總論



自其餘裕を以て不足に換へ互に生計を營めりと雖も智識の程度稍々發達し職業分立の姿茲に判然として區劃を定むるに際し是迄各自の交換にて幾分の利便を享有しつゝありし經驗は之を專業に營むとの大に勝れるを洞見し於是乎純粹なる商業家を獎勵喚起し遂に今日の如く隆盛の域に到達したるものなり

斯の如く社會進歩の結果商業家は常に有利の目的を以て貨物を生産者より消費者若くは購買者の間に分配するを事務となすが故に此媒介によれば生産者と消費者と直接に交通を爲すよりも比較的廉價に貨物の取引を爲すことを得るのみならず其關係する所も亦廣大なれば種々の物品を受授するに當り消費者に對し常に便利と満足とを與ふるものなり抑も商業家の最も急務とする所は貨物の餘剰と欠乏とのある所を機微の間に檢出するに在り故に此關係を觀察して彼處に餘りあるを此處に移し以て彼此を平衡せしむべし夫れ餘剰欠乏の度

商品學の  
定義

合愈々甚だしければ商業の利する所も亦從て多く其間に立つものをして其利分を收得せしむるは自然の理なり而して此等の業務は高等開化の人民間に於て益醇化し世運の進歩と同時に其方法も亦頗る繁複なるに至れり

商品學の定義 商品學とは商業家か平素取扱ふ所の諸物品に關し諸般の説明を爲すを以て目的とす故に諸物品の名稱種類性質所在産額製法用途鑑定相場海關稅取引の盛衰及び其消長増減等之に關する各般の事項は漏すことなく講究して商業家たるものに特別の智識を授くるものなり

抑も本學科は極めて幼稚なるものに屬し未だ完全の体裁を爲さず之か爲め其考究する所の區分名稱等判然せず從て或人は商品か市場に擲出せられて既に商業家の手に入りたる後に於ける取扱ひ方法順序に重きを置きて之を研究するものあり或は其沿革に溯り之を論究



して極めて細密なる稽查を遂ぐるものあり要するに一は簡畧に過ぎ  
 他は繁雜の嫌あるを免れず孰れも一方に偏するは惜むべきことなり  
 蓋し分業發達の今日商品の製造方法を詳細に解き又は粗生品の耕作  
 手段を綿密に講じ而して其沿革來歴を述ぶる等は既に専門家のある  
 あり故に本學科に於ては敢て此等に干涉するの要を見ずよし之を企  
 圖するも到底出來得べきとにあらずされば吾人は繁を避け簡を補ひ  
 之より單に全般の概念を授くるの精神もて説明する所あらんとす  
 商業と商品學との關係 凡そ商業家の務むべき業は貨物の需用者と  
 供給者との間に立ちて出來得る限りの便益を與ひ彼此を利すると共  
 に自己に利益を收得するに在りとは既に商業の定義に於て論述した  
 るが如し故に此目的を達せんと欲せば兵家の所謂彼此の状況を審か  
 にせざるべからず則ち戰爭に於ける勝利の必至は要するに戰鬪用諸  
 器械の利鈍と攻撃謀略の巧拙とに歸せざる可らず已に戰鬪準備にし

て完全ならんか勝算戰はざる前に在り商業取引に於ても亦此の如く  
 彼の戰爭に要する諸器械即ち商業家の取扱ふ貨物に就き其精粗と價  
 の高下とを熟知すると否とは則ち商戰界に於て勝利を博すると博し  
 得ざるとの由て岐るゝ所なり之を以て兵家は敵と對戦せざるに先  
 ち常に兵器彈藥の銳利を競ふと同じく商業家は必ず其取扱ふ貨物の  
 精粗に關し始終考慮を運ばさずんはある可らず

抑も商業の目的物は平常取扱ふべき所の貨物若くは之に準じて買  
 賣交換を爲し得べきものならざる可らず而して準貨物と稱すべき者  
 は公債株券及び信用證書等にして現今にては買賣の目的物として甚  
 だ多分に取扱はるゝものなり然れども吾人は此等の準貨物に就ては  
 論及せず單に純全たる貨物のみに關し論述するものなり

市場に出でたる貨物即ち商品を大別して三種とす動物植物礦物は  
 なり而して此等三種の商品を平素取扱ふに當り緊要缺く可らざるの



情態を研究査察することは既に商品學の定義に於て説明したるが如し故に今更に其關係に就き喋々の辯を費すは蛇足の嫌なき能はず然れども熟ら實業教育發達の今日に於て其關係を見るに實に慨嘆に堪へざるものあり何となれば本學科たる商業教育の一部として僅かに其名稱を存するが如き感あることは是なり勿論本學科は其關係する所の廣且つ大にして其所論は地理學若くは博物學に關係する所あるが故に自然此等の學科にて補綴扶助する時は稍々此智識を備へ得るの便あるを以て概ね此等の姑息手段に頼て綴合補足を爲すが如き形跡あるは往々吾人の見聞する所なり此等は商業と商品學との關係を充分に理解せざるより延て其研究に重きを置かず遂に此弊に陥たるものならん歟兎に角此學科は商業家に取り至緊至要のものなるに不拘其設備方法全きを得眞に兩者の關係を重要視して實地有益の教授を實行し居るもの尠なきは商業教育上一欠點と謂はざる可らず

吾人は商品學の商業に於ける關係に就き再び二個の譬喩を引用して示すべし即ち此關係たるや兵家の武器彈藥に於けるが如く又醫師の藥品に於けるが如しと云はんとす夫れ兵家にして武器彈藥の精粗多少を計らず醫師にして藥品の性質を辨せざる時は如何に其謀畧を運らし如何に其治術を施すと雖も焉んぞ戰に勝ち又病を治するを得ん況んや良兵家良醫師たるの名譽を博して世の尊敬を得べけんや商業家に於ても亦斯の如く内外取引の方法運輸交通の便否等を専心講究することあるも其利益の由て生ずる目的物即ち商品の性質及び其多少良否等を明知するにあらずんば其目的たる利益を得ること能はざるや必せり利益を得ること能はざれば商業を營むの甲斐なし米國の或る經濟學者曰く買手の巧みは商品の鑑定にあり賣手の妙は人の嗜好に投するに在りと是れ皆商品學の專攻する所なり商業と商品學との關係深厚なると亦知るべきなり



## 第一章 商品學との關係

商品學の講究する所は頗る廣汎なれば其關係する所亦從て廣し故に是より他學科に對する關係を略述すべし

### 第一節 商品學と博物學との關係

凡て天地間にありて吾人が目撃する所の物は森羅萬象其數限りなしと雖も之を大別すれば動植礦物の三種に外ならず而して此三種類に就き其形態性質及び存在等に關し精密の觀察を遂げ之を分類配置して詳細の研究を爲すものは乃ち博物學の專攻する所なり故に各商品の種類形態性質等は總て此學科の補助を仰がざる可らざるなり米は稻田に於て耕作し夏期に移植し秋季に收穫するは世人の普く熟知する所なり然りと雖も商業家の多くは稻は播種後如何なる順序にて發生し如何なる生育を遂げ終に吾人の生活に資する所なるや等に至

ては概ね等閑に附するもの尠ならず之を以て商品學を講ずるに當ては此等大体の智識を得んが爲め是非とも博物學の補助を仰ぎて以て之を解釋するを要す

### 第二節 商品學と理化學との關係

吾人商業家の取扱ふ物品は何れも動植礦物の一に屬するは既に説く所の如し而して又之を天然物と製造物との二種に區別し得べし天然物とは地球の表面若くは地中より生産したる現出物品を商品として取扱ふものにて例へば穀類家畜類魚介類又は鑽石類の如きものなり然るに又た現出物品のまゝにては商品と爲すこと能はず少くも加工或は製造の勞を取らざれば販賣に供し難きものあり例へば金銀鐵の如き製鍊法によるもの又は麥粉柔革磁器等の如き工作製造を爲すものは是なり吾人が取扱ふべき商品にして以上二種の内工作製造製鍊等の技術を要するものは其工作手續又は製鍊製造の方法を知らざる



可らず而して金銀の製鍊術麥粉の製造方法等は之を研究するには理化學の智識に籍らざる可らず我國從來の慣例によれば製造品として吾人が日々に取扱ふ酒油醬油の如きは別段學理的研究を積みて製造するを聞かず多くは唯だ祖先傳來の遺法に基き因襲の久しき自然に其製法宜しきを得て之を市場に販賣し以て大に聲價を博したるもの往々これありされば學理的研究を迂遠として等閑に附するもの尠からず然れども之れ大なる謬見なり今や日進月歩の時に當り金銀製鍊の術商品製造の方法は逐日改良の運に向ひ益々其種類を増加すべければ日々此等を取扱ふべき吾人商業家は各自大體たりとも取扱品の製造方法を學理的に習得するは極めて必要の事項なり而して其據る所は理化學智識の應用に過ぎざれば先づ理化學の何たるやを研究せざる可らず殊更現今は日常取扱ふべき物品に模造品あり贗造品あり之を以て吾人商業家たるものは各種物品の製造方法は勿論其組成

分をも知り置き尙且つ品位の鑑定品質の良否を判別し得るの能力を養成せざる可らず斯の如くして既に取扱品の組成成分若くは製造方法を會得し置かば品位の鑑定方法は自ら了知することを得ん最も或る種の商業に多年從事せば熟練を積み經驗を重ね此等の諸能力を養ひ眞に驚くべき技能を有するに至るは屢々吾人の目撃する所なるも今日吾人が商品进行研究する如く多種の物品に就き之を網羅して各般の事項を學習するに當り混合物の有無品質の良否を撰擇せんと欲せば須らく秩序ある學理的研究を爲し充分の智識を具備せずんばある可らず然り而して學理的研究とは試験法及び分拆法等にして是等は其商品の種類に應じて適用さるゝものなり

### 第三節 商品學と統計學との關係

既に商品の形態種類及び製造鑑定等の技能を所有すと雖も各商品に對する需用供給の程度產出額の多寡若くは市場に存在する貨物の



多少を詳知せざれば商機に投ずること能はず商業家にして商機を利用するの才能に欠くる所あらば則ち利益を見ること能はず利益を得ること能はざれば商業家たるの目的を貫徹すること能はざるなり故に商機を愆らざらんと欲せば需用供給の關係を探究し甲地の餘剰を以て乙地の不足を補ふべし吾人は平素此點に注目し而して之を知悉することを得ば則ち物品の價格に及ばず影響も豫め推知することを得て商機を失するの憂なかるべし若し之に反し惘然として市場に於ける在荷の多少を知らず製造地に於ける産出高をも詳かにせざる時は變動極りなき商業界に立ちて豈に其の勝利を得べけん哉故に商品學を以て一の科學と爲し研究者査するに當てや茲に貨物の數量を調査するは寧ろ商業家の常務として欽くべからざるものなり而して彼の地の製造高生産額并に此の地の需用消費額等を精細に考察して吾人に數量の智識を授くるは統計學の専ら掌る所なれば之れに由て

其用を充たすべし是れ商品學と統計學と密接の關係を有する所以なり

商品學と地理學との關係

#### 第四節 商品學と地理學との關係

地球は一の遊星にして其表面は人類住居の土地のみならず同時に山川草木禽獸蟲魚の所在地なり故に直接間接を問はず吾人は此地球上より生ずる諸物の恩恵に浴する所あるや甚大なり而て其恩恵たる其數幾んど限りなく或や吾人の研究せんと欲する各種の商品は則ち其一にして皆な其原を地球の一部たる土地若くは河海より取らざるものなし而して此等商品と稱する者は既に論述したる如く動物植物鑛物の何れにか所屬せざるはなし原來地理學なるものは地球の形狀水陸の區分生民の情態各地の産物氣候の差違及運輸交通の便否等を講述するものなるが故に動植鑛の三類に就き其所在を研究せんには必ず此學の力に籍て其完全なる智識を求めざる可らず然りと雖も茲



に商品學上論及する所のものは日常商業家の取扱ふべき貨物の存在地を明にし且つ其由來を論すれば以て其目的を達し得べし故に地球の形狀生民の情態等は直接に關係を有せざるを以て姑らく之を省き生産貨物に至大の關係を有する各地の氣候と商品學との關係を講すへし

抑も氣候の吾人々類に及ぼす影響は實に偉大なるものなり之を例せば吾人が平素用ゆる所の食料の種類衣服の差異家屋結構の異同等は皆な之に基因せざることなし加之此氣候なるものは他方に於て生産品の種類を支配し氣候の差別により各其有様を異にするものなれば是より其差別の原因と産物との關連する所を論究すべし但し鑛石物類の所在地は敢て氣候に關係せざるものなり

氣候とは各地溫度の高低濕氣の多少風の變化等を總稱するものにして此等は各地とも同じからず而して溫度の高低を生ずる原因に種

々あり第一は緯度の差異第二は水陸の分配第三は潮流の有無第四は土地の高低第五は土地の傾斜第六は風の方角第七は天氣の晴雨是れなり第一緯度の差異より逐次之を論ずれば緯度低き土地は大陽の溫度を受くること直接なれば炎熱甚しく緯度の高き土地は大陽の溫熱斜めに來るが故に寒冷なり是れ乃ち地球表面に五帶の區別ある所以にして各帶に産する生物に非常の差異あるも亦同一の理由によるなり第二水陸の分配が溫度に大なる關係を有する所以は湖沼河海に瀕する地は冬暖かく夏冷しくして氣候概ね濕潤なり是れ河海の水面に於ける溫度の變化は陸地に比し甚だ緩徐なり故に海濱諸國の氣候は海を距る遠隔の土地に比ぶれば概ね溫和にして且又陸地海水と交錯する土地の氣候は比較上他の同緯度の地より溫暖なるもの也第三潮流の有無は氣候を變化せしむるに就き最も著しき原因の一なり蓋し潮流なるものは空氣の流動即ち風に於けるが如く大洋中に於ける海流な



り而て此海流の生ずる原因は海水温度の差異より生ずるものにして一定の方向に従ひ絶えず兩極と赤道との間を流動するものなり赤道より來る海潮は大陽の爲に熱せらるゝが故に常に高温度を有し兩極に向て流るれば此海流の通過する沿岸の地は氣候之れが爲めに温めらる歐州の西部及び我國の如きは其作用を受くること少なからず之に反し兩極より來る潮流は温度低きか故に其勢力を被ること多き地方に限り同緯度の地に比し氣候甚だ寒冷なり即ち我北海道の寒冷なるは主として之れに由るなり第四土地の高低は猶ほ緯度の關係に於けるか如し土地高ければ氣候寒く冬期長く夏期短かし高山の巔は其麓に比し必ず温度の低きものたり第五土地の傾斜は其高低に於けると同じく若し土地山嶽の南面に位する時は北面の地に比し日光を受くること多きを以て氣候温暖なり故に方向より土地の氣候を観察すれば南面の土地最も暖く東は之に亞き西は又之に次き北は最も寒

冷なりとす素より以上の方向は赤道の南に於ては之に反するものなり第六風の方向に就ては南風は暖く北風は寒し而して風力の強弱により温度に非常の關係あるは土地の情況により大小の差あり概して地形の起伏する土地は平坦なる地面より風の影響を受くること少なければ温暖なり是れ凸起せる土地にては障壁の爲め風力を殺滅せらるゝに由るなり第七晴雨により温度に差異の生ずる理由は熱力發散の遲速によるものなり吾人の經驗によれば温度は晝夜の別により大に異なれり則ち晴天なれば晝間多量の熱を大陽より受くると雖も夜間之を發散すること速かにして雨天若くは曇天よりも甚だし斯くの如く温度の差異は大略以上の諸原因に基き種々の變化を生ずるものなり而して濕氣の多少に就て論ずれば則ち地上に於ける湖河海洋の水面は大陽の熱力により絶えず水蒸氣を上騰し而して其水蒸氣は空際に昇り風に乗して各所に散じ寒冷なる山巔又は寒氣に觸るゝ時は



茲に凝結して雲となり雨となり雪となり再び地上に下るものなりされば概ね海に瀕し且つ温暖なる國は水蒸氣の上騰盛なるが故に大氣頗る温氣に富めり殊に夏期は蒸發氣の量大なるを以て降雨の量も亦多く冬期は之に反するものなり之を要するに一般に温度高き時は愈々多く水蒸氣を含み冷寒なる時は大氣は必ず乾燥するものなり空氣の流動によつて生ずる風は常に高氣壓の地より低氣壓の地に向て流る而して氣壓の變動は温度の高低と水蒸氣の多少より起るされば風は温度の因となり果となりて種々の流動を爲し直接間接を問はず人類に非常の影響を與ふるものなり

凡そ吾人の取扱ふ商品にして動物植物に屬するものは其種類により需むる所の氣候を異にす而して其各好む所に於て生育繁茂するものなり植物類に在ては單に温度のみならず空氣中の濕氣亦偉大の關係を有し多量の濕氣ある地に生育するものと然らざるものとあり特

に注意すべきは風の強軟にして是れ亦植物發育上に至大の關係を保つものなり凡そ地球上の生物は赤道地方に於て繁榮を極め高偉度に進むに従て減少し極地に至れば全く消滅するを見れば商品學上地理學の如何に至大なる關係を有するや明白なる事實なり

#### 第五節 商品學と經濟學との關係

商品學と經濟學との關係は頗る密接なるものにして商品を取扱ふ事業家は必ず經濟學の原理を知らざるべからず商業家が平素収利の目的を以て東奔西馳焦心苦慮する所以は自己を利するにあるや明かなり故に利己の方法を研究し其目的を貫徹せんには經濟の原理元則を吟味し置き運用の時に當り敏活の働作と應用の奇才とを併用せざるばある可らず抑も經濟學の最大目的は最少の勞費を以て最多の効果を収めんとするに在るが故に商品學上不尠關係ある事項即ち交通の便否運賃の高低等は概ね經濟的眼孔を以て討究すべきものとす殊



に本學科の應用範圍に屬するものは市場相場の昇降を究むることは是なり物價高低の所因にして心に會得するとあらば則ち相場の昇降は未前に豫想するを得て以て商機を逸せざらしむるを得べし而して物價變動の所因と價格を有する物品の生産法とは經濟學に於て之を詳解するものなりされは若し物價變動の所因にして胸中に釋然たらず尙且市場相場の趨勢を豫知せず其の高低を豫察すると能はずんは常に人後に落ちて巨利を博すると甚だ覺束なきなり且又運搬方法の整不整は商品を輾轉輸送するに當り非常の關係を有すると勿論なれば是れ亦經濟的思想より推及して其方法を完善ならしむるに考慮を運らすを要す以上の如く經濟學にて論及する所のものは相場高低の所因と云ひ運搬方法の良否と云ひ運賃の高下と云ひ何れも商品學に欠く可らざる事項の一なれば本學科と經濟學とに至緊の關係を有するとまた知るべきなり

#### 學科關係の結論

#### 第六節 學科關係の結論

商品學の他學科に關係を有する事大畧右の如し而して尙仔細に特別なる關係あるものに就て之を論すれば他に歴史あり法律あり歴史は以て取扱物品の沿革變遷を知り既往に鑑みて將來を卜し得べく且つ法律は商品に特種の關係ある各般の制裁を豫て認識する事を得べきなり以上の如く本學科の關係する所は頗る廣大なり然りと雖も今や其主要なるものに就ては前各節に於て論述したれば學者須らく以上を參酌し尙進で別に關係ある所を一層深く布延する所あらば蓋し思ひ央ばに過ぐる所あらん

### 第二章 各種商品の名稱

凡そ商品として研究すべき各種の品名は地球の廣き事物の巨多なる其數殆んど枚舉に違わらず殊に輓近科學の進歩發達は直接となく

#### 各種商品の名稱



間接となく國利民福を増進せざるものなく従て農工業上に在ては種々の貨物を案出し之を市場に出して互に輸贏を競ふこと文明社會全般の趨勢なるのみならず此勢力は日一日と膨脹し來り今や地球全土を席卷して餘す所なく苟も商業上有利の目的物たるものは假之牛溲馬勃敗藪の皮と雖も商業家藥籠中の物となりて遺す所なく盡く市場に於て取引賣買せらるゝに至れり

抑も本邦の面積は英國より大にして佛國より小なり而して其人口は殆んど佛國と等くして英國より稍多し多數の人民は其性機敏にして且勤勉なれば比較的他の諸國より多種の貨物を有せり殊に其地味は膏腴にして氣候温和なるが故に雷に天然の産物に豊かなるのみならず又人工の製品に富めり更らに海外諸國と交通を開始したる後は貨物即ち商品の種類著しく増加し既に今日に於ては凡そ輸出品に於て三百餘種輸入品に於て四百七十餘種の多きに達せり此等各種の商

礦物屬商  
品名稱

品は皆社會事物の開化と商工業の發達とに隨ひ衣食住の需用に充てんが爲め或は製造工作の原料に供せんが爲め若くは奢侈の目的を達せんが爲め皆何れも須要に應じて取引買賣せらるゝものなれば其數を増加するは自然の勢なり斯の如く日に益々増加するの商品に對し茲に其品名を録するは殆んど兒戯に類するの謗あるを免れずと雖も順序上之を掲記して學者に此概念を惹起し置くの必要を認むるが故に各部分類を爲して重なる名稱を記載すべし

第一節 礦物屬商品名稱

第一目 飲食物類

普通食鹽 Common Salt 岩鹽 Rock Salt

第二目 藥材製藥品及染料類

硫黃 Sulphur 丹 Red Lead 膽礬 Blue Victorial 礦水 Mineral water  
明礬 Alum 辰砂 Cinnaba 油藥 Lotion 白粉 White Lead.

礦物屬商品名稱



朱 Vermilion 金液 Liquid Gold 赤磷 (Phosphorus Amorphous)

第三目 油類

石油 Kerosene Oil 石腦油 Petroleum 重油 Bitumen or Asphalt

機械油 Machine Oil 揮發油 Essential Oil

第四目 金屬及金屬器類

金 Gold 砂金 Sand gold 銀 Silver 鑄 Solder

亞鉛 Zinc Spelter 亞鉛鑛 Zinc Ore 滿俺 Manganese 滿俺鑛 Manganese Ore

鐵 Iron 鐵鑛 Iron Ore 銅 Copper 青銅 Bronze

錫 Tin 鉛 Lead 鉛鑛 Lead Ore 安質母尼 Antimony

水銀 Mercury 真鍮 Brass 電鍍鑛 Electro-plated Iron 鐵器類 Iron ware

鋼 Steel 真鍮線 Brass wire 銅器類 Copper ware 青銅器類 Bronze ware

銃炮 Gun 烟管 Pipe 針 Pin 錫器類 Tin ware

真鍮器類 Brass ware 鐵線 Iron wire 鐵釘 Iron nail 銅線 Copper wire

白銅 Nickel

第五目 土石及土石器類

石炭 Coal 陶土 Keolin 石 Ston 石灰石 Lime stone

石灰 Lime 砥石 Grind-stones 硯石 Ink Stone 礮石 Marble

水晶 Crystal. 煉瓦石 Brick 瓦 Tiles 灰水泥 Cement

陶器 Earthen ware 磁器 Porcelain ware 七寶燒 Shippo ware 漆陰 Mortar

玻璃器 Glass ware 磨玻璃片 Window Glass 玻璃鏡類 Looking Glass.

動物界商  
品名稱

第二節 動物界商品名稱

第一目 食用類

牛 Cattle 馬 Horses 綿羊 Sheep 豚 Pig

鯨 Whale 鮫 Shark 鯊鰭 Shark's Fins 鱈 Cod

牛乳 Milk 猪 Wild Pig 鹿 Deer 鷄 Fowls

鶩 Quail 雁 Wild goose 雉子 Green Pheasant 鴨 Duck

動物界商品名稱



鴨 Wild duck	雀 Sparrow	鱈 Sardine	鯉 Herring
鮭 Bora	鮭 Salmon	鯛 Tai	鯛 Cattle Fish
鰺 Plate Fish	鰺 Bonito	鰻 Bel.	黑鯛 Black Tai
鮪 Tunny Fish	河豚 Fugu	鱒 Buri	鱒 Carp
鰹 Horse Mackerel	鰹 Ayu	鰹 Mackerel	蝦 Shrimps
鮑 Awabi	蛤 Hamaguri	乳膏 Condensed Milk	奶油 Butter
乾酪 Cheese	火腿及ベーコン Ham and Bacon	鹹魚 Salted Fish	
鹹肉 Salted Meat	生卵 Fresh Eggs	海參 Iriko or Beche de Mer	
第二目 藥材製藥品類			
熊膽 Bear's Gall	臘腸腸 Seal	肝油 Cod Oil	蜂蜜 Honey
阿膠 Glue	蜜臘 Bee's wax	雄黃 Gamboge	
第三目 油及肥料類			
鯨油 Whale Oil	魚油 Fish Oil	乾鱈 Dry Sardine	乾鱈 Dry Herring

魚粕 Fish Cakes 獸脂諸類 Lard and Tallow

第四目 蠶絲蠶綿類

蠶卵紙 Silk worm Eggs 繭 Coccons 生絲 Raw Silk

真綿 Floss Silk 層絲 Wast Silk 天絲 Tama silk 變天絲 Noshi Silk

空繭 Pierced Cocoons 層繭 Wast Cocoons 層真綿 Wast Floss Silk

第五目 絹毛帛及裝飾品類

縫箔糸 Unenumerated Threadls and Twines 絹布巾巾 Silk Handkerchiefs

絹製品 Silk Manufactures. 絹布類 Silk Piece good 縮緬 Crapes

羽二重 silk Piece good, Habutae 雙羅子 Silk Satins 絹緞 Pongee

羅紗 Woollen Cloths 手羅子 Itatian Cloths ハンナチヤ Flannels

ハンナチヤ Blankets セルヂヤン Serges 手織糸 Woollen yarn

縮緬帛巾 Mouseline de Saine 毛メリヤン肌衣 Woollen under-shirts and Drovers

手織子 Wolen Damasks



第六目 皮毛甲角類

- 臘虎皮 Sea-Otters skin
- 燕皮 Leather
- 鹿角 Deer-Horn
- 羽毛 Feathers
- 珊瑚 Coral
- 鮑貝 Awabi shells
- 夜光貝 Conch shells
- 蠟龜 Tortoise-Shell
- 象牙 Ivory
- 鯨鬚及鯨骨 WhaleBones and Fins
- 獸毛 Hair and Wool
- 毛皮 Furs
- 生皮 Hides and Skins
- 獸筋 Animal Muscles
- 獸骨 Animal Bone
- 犀角 Rhinoceros horns

植物界商  
品名稱

第三節 植物界商品名稱

第一目 穀物及飲食物類

- 米 Rice
- 大麥 Barley
- 粟 Italian Millet
- 黍 Sorghum
- 玉蜀黍 Indian Corn 豆 Beans, peas
- 綠茶 Green Tea.
- 昆布 Sea-weeds
- 蕃薯 Potatoes
- 甘薯 Sweet-potatoes 砂糖 Sugar
- 飴 Starch Sugar
- 菜子 Rape-seeds
- 椎蕈 Mushroom
- 酒 Sake
- 醬油 Soy

- 味噌 Miso
- 啤酒 Beer
- 葡萄酒 wine
- 刻昆布 Cat sea-weeds.
- 乾溫鈍 Hoshi-udon
- 素麵 Vermicelli
- 乾菓物 Dry Vegetables
- 胡椒 Pepper
- 麥粉 Flour
- 咖啡 Caffe
- 裸麥 Rye
- 薑 Ginger
- 小麥 Wheat
- 粉茶 Dust tea
- 落花生豆 Ground-nuts
- 紅茶 Black Tea
- 玉茶 Lump Tea
- 磚茶 Brick Tea
- 烏龍茶 Oolong Tea
- 赤砂糖 Brown Sugar 白砂糖 White Sugar
- 糖密及糖水 Molasses and Syrup
- 冰砂糖 Soft and Lump Sugar

第二目 藥材製藥品及染料類

- 阿片 Opium
- 染草 Dyes
- 藍 Indico
- 紫梗 Stick-lac
- 紅花 Saffour
- 薄荷腦 Menthol Crystal
- 人參 Ginseng
- 樟腦 Camphor
- 茯苓 China root.
- 牡丹皮 Peoney Bark 黃蓮 Genlain
- 樟腦油 Camphor Oil 薄荷油 Peppermint Oil.
- 五倍子 Gall-nuts

第三目 草木竹紙類

植物界商品名稱



- 烟草葉 Leaf Tobacco 半紙 Hanshi 美濃紙 Mino Gami 櫻欄皮 Coir
  - 大麻 Hemp 苧麻 Flux 黃麻 Jute 薪 Fine Wood
  - 炭 Charcoal 漆 Lacquer 竹 Bamboo 松 Pine
  - 檜 Quercus 杉 Japan Cedar 樅 Fir 桑 Mulberry
  - 檜 Hinoki 雁皮紙 Gangishi 刻烟草 Cuto Tobacco 紙卷烟草 Cigarettes
  - 卷烟草 Cigars 竹器類 Bamboo ware 木器類 Wood ware
  - 紫檀器類 Rosetta wood ware 地蓆類 Mats for floor 麥稈器類 Straw ware
  - 麥稈眞田 Straw plaite 麻繩 Hemp Rope 麻袋 Ganny Bags.
- 第四目 油及臘肥料類
- 菜種油 Rape-Seeds Oil 亞麻仁油 Linseed Oil 木蠟 Vegetable wax
  - 蠟燭 Candles 橄欖油 Olive Oil 椰子油 Cocoa nut Oil 豆油 Pean and Pea Oil
  - 胡麻油 Sesame Oil 蓖麻子油 Caster Oil 油糟 Oil Cakes. 香水 Perfumed water
  - 香油 Hair Oil

第五目 帛布及裝飾品類

- 綿花 Raw-Cotton 紋羽織 Monpa 麻布類 Hemp Cloths
- 蚊帳 Mosquito net 綿縫糸 Cotton Threads 縮織 Cotton Crapes
- 綿織糸 Cotton yarn 蒲團 Mattress 金巾 Shirtings
- 足袋 Socks 檯衣 Table Cloths 綿ノメンケン Cotton Flannels
- 雲齋布 Cotton Drills 綿メリヤス肌衣 Cotton under-shirts and drawers.
- 綿繻子 Cotton Satins 綿帆布 Cotton Duck 緋金巾 Turky-reds.
- 綿鈍子 Cotton Damasks 更紗 Printed Cotton

以上の商品名稱は固より概略にして尙之に漏れたるもの尠からず然れども普通に取り引せらるゝものとして右にて全体を網羅したりと信ず故に此等の品目に就き商品學上の研究を重ねる時は先づ其要を盡し得るものと謂ふべし



## 第二章 各種商品の種類別

商品の種類は前記商品名稱の種々様々にして其數甚だ多きと同じく殆んど際涯なし殊に茲に云ふ種類に至ては一品にして數種を有するものあれば蓋し其總數に於ては計り知る可らざるべし然れども茲に論ずる所のものは各一品つゝに就て其種類別を生せし起因に遡り分類配置して以て之を研究するものなるが故に稍其目的を達するを得べし

## 第一節 各種類の生ずる理由

凡そ動物植物礦物に屬する商品及び此等を原料として製造したる商品に就き種類別の多少に關して之を論ずる時は礦物に屬するもの最も種類少なく其他は種類甚だ多し何となれば動物植物及び各種の製造品は外界の境遇若くは人智の開發により逐年其種類を増加する

の傾あるを以てなり而して礦物屬に在ては天然力に依て自然に存在するものに外ならざれば人力の得て増加し得べきものにあらず吾人の平素認識する所なるも植物に在ては然らず自然の力能く各所に散布繁殖するの好機を與へ若し其地の氣候地味等にして之が生長に適する時は茲に萌芽して忽ち繁衍するものなり而して動物の移轉蕃殖するは更に之より甚だしきものあり何となれば其卵子が外物によりて他所に運搬せらるゝの外又自ら移轉し得るの能力あればなり斯の如く動植物にして或る場所より他の場所に移轉蕃殖する時は爰に其種類を増加するは誠に見易きの道理なり蓋し品種なるものは米麥牛馬豕雞の如く常に一定の形狀性質を備ふるものを云ふ而して此品種なるものは境遇の變化すると同時に亦變化を受るもの也稻に水稻陸稻あり麥に大麥裸麥あり馬に南部産肥後産あり又鯨に北海鯨抹香鯨等の別あるが如きは皆外界力の如何により一種のものより變化



し來りたるや疑なし加之其境遇及び栽培飼養の如何によりては動植物をして多少其性を變せしむるものなり而して其多少變化したる性質を失はざらしめんと欲せば其培養生育に注意するに在り今若し米茶の如き種々の作物又は牛羊の如き動物等を以て國利民福を計らんと欲せば極めて善良なる品種を撰擇し充分の養分を給し適當なる温度を與へ然る後ち其分に應じて次第に性質を變し遂に善良なる品種を生ずるに至るは自然の道理なり蓋し善良なる品種の數量の増加するは社會の趨勢なり是れ世運の進歩と共に學藝技術等頗る發達して以て學理應用の範圍益々擴充したるに歸せずんばあらず

文明の益々進歩するに従ひ物品の應用に關し其用途の増加と分岐するとに連れ品種類の増加する有様は實に驚くべき程なり例へば稻は我國最も普通の作物にして尙數百の品種を有し又爪哇薯の如きも三百種以上ありと云ふ其他品種の現今著しく増加したる例證を擧ぐ

## 各種類名稱別

れば千七百廿二年魯國の「ローレンツラング」氏が魯清間茶貿易を調査せるに其品種僅かに一種に過ぎざりしも一千八百廿九年に至り「エルマン」氏が之を調査せるに其品種増加して七百餘種の多きに達せりと以て人類嗜好の益々發達し齊しく茶の一種なるも其用途愈々繁多に趣くと同時に種類を増加すること推して知るべし

## 第二節 各種類名稱別

品種増加の理由は右の如くなれば茲に動物の良種類を得んと欲せば甲種と乙種とを交尾して丙種を産せしめ又は植物の良種を得ん爲め丁種と戊種とを接合して己種を繁茂せしめ若くは社會の嗜好に投せんと企て新たなる製造品を世に顯はす等人類競争の結果品種をして多種多様ならしむるの有様は實に其底止する所を知らざるなり然れども新陳代謝榮枯盛衰は總ての社會に通ずるものにして商業家が日々取扱ふ貨物の上に於ても此法則行はれ今まで某種の動物は商賣



社會に於て珍重せられ爲めに取引非常に頻繁を極め一時市場の流行品と稱せらるゝことあるも一朝新たに他種の右に優る動物市場に顯はれ來り世の歡迎を享くことあらば曩の動物は自然市場に其跡を絶ち遂に絶滅するに至りて止むよし又其種類全く滅せざるも取引上茲に價値を失ひ一顧に値するだになきに至らば殆んど其種類なきに近しと云ふべし是れ唯だ動物のみならず植物亦同しくして殊に著しきは製造品に於て之を見る例へは附木及び行燈の如し今日にては兩者何れも他に便利なる摺附木又はランプに其位置を奪はれ市場に其影だに止めざる有様なりかゝる現象は往々他品に於ても見受る所にして世人が一時非常に愛玩貴重せしものを一度他の輕便にして徳用なる器物又は其他動物植物等の世に出つることあらば遂に前品の廢棄せらるゝは自然の勢力にして流行品の如きは最も此風潮に支配せらるゝこと劇しされば此等際涯なき商品の種類に就き大綱を分て

種類の原因を探究するは極めて難事に屬するが如く見ゆれど現在商業界にて取扱はるゝ品種別に就き更に専心講究する時は蓋し左の九種に外ならず因て以上序を逐ふて之を略述せんと欲す

- 第一 品位上の種類
  - 第二 性質上の種類
  - 第三 學術の種類
  - 第四 收穫上の種類
  - 第五 土地上的種類
  - 第六 俗稱の種類
  - 第七 形色上の種類
  - 第八 用途向の種類
  - 第九 製造上の種類
  - 第一 品位上の種類
- は商賣上最も普通の種別にして各商品に應用するものなり一に之を等級別とも稱す即ち上等品中等品下等品と云ひ又は最良品良品並品と稱し世間に沿く唱ふる種別なり而して固と此種類の生じたる原因は物品其物の固有する性質の良否適不適等より生じたる等級別にして概ね市場に在る商品には必ず附帶するの種類なり製造物品には精製並製あり是れ亦此種類に屬せり例へば米に上白中白下白等の三等級あるが如し



第二 性質上の種類 とは商品固有の性質たる硬軟柔弱若くは細太  
 纖巧等の區別よりかゝる種別を生じたるものにして最も多く鑛物屬  
 の商品にあり例へば軟鐵硬鐵冷脆鐵等の種類是れなり

第三 學術的種類 は所謂學者間に唱ふる種類にして物品の未だ商  
 品とならざる前學術研究の便宜とし三分類種別したる汎稱なり商業  
 家たるものは單に市場に在る商品に就てのみ研究する時は一見學者  
 間に行はる種別を知るの要なきが如しと雖も或る場合に依ては特  
 に必要を感ずること尠からず例へば昆布青海苔等を藻科植物と云ふ  
 が如し

第四 收穫上の種類 は物品收穫の時期即ち早晚遲速若くは製造季  
 節の寒暖を異にする等より生じたる種類にして多く植物生産品又は  
 製造貨物等に此種類を存せり例へば稻の早中晩と稱すること又は製  
 粉の寒晒並晒粉と唱ふるは皆季節の相違に由るものなり

第五 土地上の種類 是貨物産出の土地を基として呼稱する種別に  
 して吾人の取扱ふ商品には大概此稱あり蓋し此種類の生じたる所以  
 は各地に於ける特別なる外界力の然らしむるものにして即ち其氣候  
 にまれ土壤にまれ皆差異あるを免れざれば時に或は彼此類似の點な  
 きにあらざるも萬般の事情は同一なるを得ず故に此等差異ある土  
 地より生産する貨物は品目相同じきも必ずや其性質形狀を異にし各  
 自特別の質を顯はすものなりかくして特別の品質を備ふる時は人々  
 に固有する愛郷心より其特性を持するに勉めたとへ生産品の品質善  
 惡如何に拘らず概ね己れが土地に産したるの故を以て他に誇るの證  
 票として自國名を冠し以て其種類を明にす此精神たる生産家に貴ぶ  
 所のものにして蓋し愛郷心より來りたるならん歟之を以て本種類の  
 數は最も多數を占め各商品とも此種類あらざるなし例へば馬に南部  
 種肥後種あるが如く又各商品に内外國産の名稱あるが如し



第六 俗稱的種類 一の貨物に冠するに俗話的名稱を附し以て他の俗稱と區別する種類名なり此種類名たる貨物をして最も雜多ならしむる基にして有識者は早くより之を憂ひ無暗に其種類を増加するとの無益なるを生産者に警告することありと雖も生産者たるものは唯だ己れが産出せし貨物を社會に紹介して以て名聲を博せんと欲するの餘り日一日と此等の種類を増加するは一の弊害にして徒らに取引をして煩雜ならしむるの結果を來せりされども一方に於ては又之れあるが爲め生産者をして自然に其改良方法を獎勵するの觀あり彼の外國輸出に適する房吉米の如きは好適例なりと云ふべし然れども此等は寧ろ有數の事にして多きを望むべからず故に平凡なる商品に對し其種類を殖すは宜しからざるを以て今後は可成新たなる稱呼を附するを慎み古來より慣行し來りたる種類を以て之れが制限を立てざる可らず而して本種類名に屬する米の種類を擧ぐれば關取米白

玉米神力米等にして又大麥に於ける白坊主大高坊主の如き即ち是れなり

第七 製造上の種類名 是製造品の有する種別にして多くは器械の名稱を之に附せり例へは紡績器械糸座繰糸等の如し而して鋼鐵に於けるベセメル鋼マーチン鋼等は矢張り此種に屬せり又硫黃に於ける精製品並製品等も此種別に屬するゆへ必ず器械の名稱を附すると限るにわらず蓋し此種類は世運進化し製造工業の術發達すると同時に益其數を増加すべければ今後何百種に至るや計り知る可らざる程なり

第八 形色的種類名 是各商品の固有する色澤形狀等より起りたる種別にして實際に於ては附屬種別の觀あり故に上記種類と概ね併稱せらる然れども吾人の平素取扱ふ商品にして往々其形色にのみ由て取引を完了するもの尠からず例へば黒赤白砂糖及氷角砂糖等はなり







体の物質は實に千種萬様に於て其際涯を知らず然れども科學的に之を  
 察査する時は物体の性質上二別あり一は萬物に通有する性質にして  
 一は特種の物品に限り具有する性質なり前者を通有性と呼び後者を  
 偏有性と稱す而して通有性とは理學者の所謂物体の不滅即ち無盡性  
 は之に屬するなり彼の薪炭油の如き之に火を點する時は火力の爲め  
 燃盡され恰も滅失するが如き外觀を呈するとあるも是れ唯吾人視覺  
 の達せざるのみにして此時に當り薪炭油は其形狀を變化し一部は炭  
 酸瓦斯及び水蒸氣と爲りて空際に昇り一部は灰分となりて殘留し矢  
 張其物質は依然として此世に存在するものなり斯る性質は動植礦物  
 の商品にも亦相通して保有するものなり是に由て之を觀れば現時宇  
 宙間の萬物を構成する實質の數量は之を草昧混沌の時代に比するに  
 些少の増減あることなく今後に於ても亦此原理に隨へて新たに其數  
 量を増加減少することなかるべし而して如斯不滅性の外尙は萬物に

普通なるもの十性あり物品の重量形狀分割等の性はなり然り而して  
 或種の物品によりては以上の通性以外に特有する性質あり之を偏有  
 性と名く此性質たる一定不變のものにあらず隨時に變化して定限な  
 く一物にして今まで存したるも後には之を失ひ今日まで有せざりし  
 も明日之を生ずる如き場合屢これあり而して此性たる商品學上最も  
 貴重すべき性質にして其數六あり硬、軟、脆、柔、粘着、彈力の諸性質是なり  
 即ち吾人の生活上に於ては硬、軟、脆、柔の諸性を有する木石金屬の類は  
 世人其特性を利用して器具を製し機械を造り硬性は以て永久の保持  
 に堪へしめ軟なるは以て一時を凌ぐべく何れも皆人類智識の支配を  
 受て萬般の用務を辨しつゝあり又粘着性ある糊泥土の如きは之を用  
 ひて戸障子の補綴用と爲し若くは屋壁を修復し又は器物を製す且又  
 彈力性を有する護謨象牙の如きは其性に應じて人類に非常の便益を  
 與ふるものなり世人は右の如き異性質のものを取りて之に適合する



用務を案出工夫し或は實用に或は娛樂に充て、以て人生を利す蓋し人文の發達進歩は漸次應用の範圍を擴め食料工藝醫藥等専ら其性に應ずるの計畫を運らしつゝあり而して此等性質の千体万狀なるは獨り無生の物品に留まらず生物に於ても亦然り即ち人類の幸福を増進する爲め使用する鳥獸類は矢張り各特有の性質を利用して功益を計るなり吾人が平素市場に於て買賣取引に供する動物の種類は鳥あり獸あり魚ありて甚だ多し然れども其性質を利用して殊更に利用の途を講ずる種屬は牛馬羊豚の如き四足獸なりされば生物の有する性質を研究するは此等四足獸の諸性を研究するを以て足れりとす而して凡そ生物の固有する性質と云は、活潑機敏孱弱遲鈍若くは驚き易き性あるか又は馴れ易き性あるか強壯なるか羸弱なるか等に外ならず即ち強壯にして活潑機敏の性あるは之を適當なる用途に使役し羸弱にして孱弱遲鈍なるは其性質を利用せずして毛皮角甲の製作用に向く

るは營業者の應に知るべき事項なり故に吾人は常に其性質を熟知し置かざる可らず殊に平素之を詳知するの利益は常に商品の用途を擴充するの利あるのみならず兼て不時の損耗を免るゝことを得且夫れ吾人商業家の平素掌る所は各商品の性質に應じ需用者の希望をして満足ならしむるにあり而して之等は最も機敏の働作として専ら其進路を辿ること當事者の勉めなるべしと雖も彼の流行品變遷の時代などに遭遇する場合には一面に社會需用の趨勢を觀察して之に備ふると同時に他面に於ては製作供給に對し商品の性質に應じ改良と刷新とを促す事に注意せざる可らず實に斯る場合に於ける商業家は萬般の指揮者にして一步を誤れば回復すべからざるの損失を醸すとあるべし即ち何品によらず吾人の取扱ふ所の商品に就ては其賣行の盛衰と貿易の消長とは蓋し商業家の雙肩に懸れり故に先づ商品を取扱はんには其性質を查察したる後臨機應變の處置を爲し利を取り損を



免るべし

四八

## 第二節 各種商品の用途

物品の用途とは商品消費の方面を意味するに外ならず吾人は平素必要と奢侈とを問はず一の快樂を享受し又は苦痛を避んが爲め或る商品を使用し以て身心の満足を購はんと欲せば物品を消費し若くは其効用の一部分を消費せざる可らず勿論人類が物品を消費すると云ふも全然物體を消滅するに在らず理學者の所謂世界に存在する凡ての物品は之を燃焼するも或は之を破壊するも尙は動力熱等の如き他の勢力となりて宇宙に存在し到底之を滅盡し能はざるとは已に説けるが如く吾人も亦唯だ商品の一部若くは全部を破壊消耗するに過ぎざるなり而して物の消費即ち用途に對する社會人心の意向は何れも皆厚薄多少の差別あり而して人類の生活には必ず衣食住の三を欠く可らず然し生を覆載間に稟けたる人類には智識發達の如何に於て自

ら文野の別あり是と同様衣食住に要する材料を使用する程度に於ても亦差異あるは自然の現象なり人智未だ進まず學藝尙は闡けず今猶野蠻未開の境遇に在る人民の如きは衣食住の三者に關して多く神心を勞せず其風習たる食を獲れば則ち逸し食盡れば則ち勞し以て世を渡る事禽獸と相距る殆ど遠からざるものは暫く之を措き苟も一定の居所を有し土地を耕し漁業に従事し工業に勉勵する開化の人民に於ては生活上種々の物品を使用するものなり而して其使用する物品の性質によりては生活を維持する爲めに必需なるものと快樂を享受せん爲めに用ゆるものとの二種類あり然り而して生活上必需の物品は之を稱して實用品と呼び精神的慰藉の物品は之を名けて奢侈品と云ふ故に商品の用途に於ても之を二種類に區分するを要す實用品奢侈品の二者は是亦其使用の多寡に關し人文進歩の程度に従ひ自ら差別の生ずるあり此事たる獨り人文の進歩に留まらず土地氣候の寒暖風



俗習慣等により自然厚薄多少の相違あるは自然の現況なり

商人の平素取扱ふ物品は皆社會の需用に應ずるものなれば一として右二種の範圍を脱せざるものなり故に商人たるもの、研究すべきは前章に於て既に論じたる如く其業とする所は物品の需用者と供給者との間に介立して彼此の媒介を掌ること其本務なれば必ず物品需用者の意向と物品其者の有する固有の用途とを豫知し置かざる可からず而して之と同時に又社會物品の流行變遷に就ても考察するを要す

元來吾人の取扱ふ商品にして其性質人生必須の種類に屬する者は社會需用の程度に於て變遷少なきが故に忽ち其價格を失ひ非常の損失を醸すが如き時變少し然れども夫の奢侈品は之に反し時々浮沈あるを免れざれば一朝嗜好の變に遇ひば店頭多數の物品も忽ち價格を失ひ意想外の損失を蒙ると往々にしてこれあり尤も或場合に於ては

敢て莫大の損害に至らずして人心嗜好の回復より又以前の流行品を再需し漸く巨大の損失を免るゝが如き好機會に逢遇するとありされど是等の場合は稀有の事態にして常に望む可きにあらず蓋し嗜好の轉化流行の變遷等は寧ろ高度開化の人民に於て多く行はるゝものにして此社會に於て一旦廢物となりたるものは低度の人民に於て再び之を需用し以て一旦流行に後れたる物品をして再び用途を開くの場合あればなり

今それ高價なる奢侈の工業品と一般人民の需用を目的とする普通工業品とは何れか先に發達進歩せしやと問はゞ苟も普通の識別力を有するものは後者を以て最も先に發達したるものと答へん然とも世界各國の歴史は不幸にして全く反對の現象を示せり今獨逸の例を以て之を説明せんに元來獨國に於ける中等社會なるものは多くは貴族及以下等人民の社會より遙に後れて發達したるものに拘り工業は已



に一旦盛大の域に達したる後漸く中等社會の援助を得て始めて顯著なるを得たるものなり故に此國に於る工業者は當初の間製造品は僅かに試用の爲め講求せられしのみにて之を中等社會多數の人々に販賣するを得ざりき何んとなれば此時代に在ては自家需用の物品は總て自ら之を製作したるに由るなり且又中等以下の人民に在ては皆貧困粗野にして固より製造品を講求するの資力なければ此等の物品を消費すると能はず故に當時に在ては製造品の重なるものは富者及び貴人なる一小部分の需用に供するに過ぎずされば此國にて普通人民の多く使用する製造工業の發達したるは貴族等の珍重愛玩せし奢侈品より後れて發達したる事跡は掩ふ可らず更に工業製品の實例に就て之を論ずれば彼の今日必須欠ぐ可らざる工業として盛大を極め居る鎔鑄鑄鐵又は條線及び薄葉製造の如きは當初貴金屬精鍊等の爲に用ゐたるものなりしも後遂に銅錫等に及ばし結局普通品製造に

轉用し來りたるものなり

各種商品  
性質研究  
の必要

### 第三節 各種商品性質研究の必要

凡そ市場に存在する貨物乃ち商品には各自特別の性質を具備すること前節に説明したるが如し例へば米は澱粉質に富みて人の生活上體內に熱を與へ又其蛋白質は滋養液を給する等皆物品其物の有する固有質に由て總て利用厚生の道理に適ふものなり之を以て商品特有の性質を能く理解して其適用を誤らざる時は經濟上節約的效果を顯はし取引上に於て尠からざる利益を博することを得べし然るに今日實際商業に従事する本邦の商業家を視るに此の點に就き甚だ粗略なるが如し今穀物商より例を取て之を論ずれば蓋し穀物商たるもの、多くは唯だ單に需用者たる顧客の好みに應じ穀類を供給するを以て唯一の勤めとなし其間に於て些少の利益だに得る時は之にて満足し敢て他を顧みざるは今日の常體なり故に自分の供給したる穀類は製

各種商品性質研究の必要



造用に使用するか若くは食料に供用するか牛馬の飼養料に費すものか等は概ね注意せず之に注意せざるが故に其用途に適當なる品質を撰擇して之に充つることを知らず顧客に於ても亦因襲の久しき強て之を尤めず漫然普通の事として放擲し置くは不經濟不便利の甚だしきものと謂はざるを得ず然るに世の進歩は著しく發達し従て商品の種類は益々増加し往々にして需用者の未だ曾て觸目せざりし商品の市場に現はるゝと多し故に此場合に當て商業家たるもの豫め其品質形狀を研究し置き適用の如何を撰別確定し之を販賣するに際し新規商品と在來商品とを比較して其優劣の存する處を需用者に明示する時は買手に於ては安堵して之を需用し賣手に在ては益々販路を擴むるものにして相互に便を得るとりれ若干なるや智者を待たずして知るべきなりされば海外諸國の各商人は早く此點に注目し其商品を其店頭陳列するに當り必ず先づ其性質を研究し之を標記して以て購買

者に一見如何なる用途に適合するやを了知せしむ商業家にして品質を熟知し置く時は管に販路を擴むるのみならず其用途を擴充せしむるの好方便なり故に此一事たる商業家に取りては甚だ肝要なるものなり

商業取引に於ては所謂大取引と小取引との區別あり語を換へて言はゞ問屋業と小賣業との差引にして商品需用の側に於ても亦自然之に伴ふて差別あり問屋業にては小賣業の如く直接消費者に接近する場合少なきを以て比較上より云はゞ問屋業者は各商品に就き逐一性質用途を解明するの必要なしが如しと雖も之れを知ると知らざるとにより營業上受くる所の損得は無形と有形を問はず頗る莫大なり抑も品質の如何は用途の由て生ずる原因にして形態も亦之に隨伴するものなるは略ぼ解きたるが如しさて開化を以て誇る歐米商人の爲す所を見るに彼等は必ず先づ如何なる場合にても用途を探究し然



る後ち品質の適當なるものを撰で之を市場に出して其需用を待つか故に忽ち販路を擴張し巨大の利を博するも往々にしてこれあり蓋し是れ日常取扱ふ商品の性質を豫め研究し置くの素養あるに依らずんばあらず夫の近時本邦に輸入し來りたる虎印石油は其適例にして彼等の爲す所も孰れも皆な品質を探究査察したる結果ならずんばあらず之に反し本邦商人の多數は祖先傳來の業務として多年間同一の營業に従事するもの多しと雖も其取扱ひ商品の品質形狀用途に就き質すことある時は晷然として其の如何なるや詳細の解明を爲し能はざるものあり實に慨嘆の至りにあらずや蓋し是迄商品を學問として深く研究査察することなく唯だ熟練と經驗とのみに依頼したる餘弊にあらずるなき歟

吾人思ふに本邦各商人が商品の性質如何に留意せず今日に至りたるは概ね外を知らざりし之の罪に歸せざる可らず然りと雖も今日尙此

點に就き商業教育家より實業界を警醒したるものあるを聞かず是れ吾人の寡聞淺識によるべけれど兎に角實際は事實を證明して餘りあり然らば商品の性質を等閑に附したりし之の罪は獨り實業家にのみを責む可らず商業教育に従事するものも亦怠慢の責を免る可らず之を以て商品を一の學科として考察するに當りては先づ其品質より研究すること極めて必要なり若し然らずして舊態を脱せず今後海外諸邦の各商人と商業界に輸贏を争はんとせば勝敗の算敢て考慮を費すに及はず是れ本編に於て特に之を論したる所以なり

## 第五章 各種商品の所在地

各種商品の所在を探究するに當ては先づ其性質に由て部類を分ち然る後ち其部類に就き所在を明かにせざる可らず而して茲に部類と稱するは礦物部類動物部類植物部類及び右三部類を原料として製作

各種商品の所在地

各種商品の所在地

五七



せし製造品是なり

礦物類所  
在地

第一節 礦物類所在地

礦物部類は概ね地殻を構成する岩石土壤中に存在し地上に現出するもの少なし然れども稀には石材の如く地上に露出するものもあり而して其埋没せる礦石類並に露出せるものは重に如何なる所に存在するやと問はゞ地中に埋藏せるものは火山脈の連亘する地域か若くは花崗岩石及び其他の岩石にて組成する山脈中に在り又其露出せるものは平地より崛起せる山岳か若くは河流の延婉せる地區に在りと答へん其理他なし金銀銅鐵の如き有用礦物は天然自然に岩石中に層を爲して存するあり或は岩石の割目を充して脈を爲すあり或は不規則なる形を爲せる塊となりて存し或は多年の風化作用によりて一分子的細分子となり岩石を染めて成るものあり而して此等の鑛脈鑛塊并に染鑛の生成は岩石に浸入せる水の爲に溶解せる鑛液自然に沈澱し

て生じ又は蒸滲より分れて固結したるものなれば其所在として目すべきの土地は以上の地域に限れりと云ふて不可なきなり然り而して此等の諸鑛物を有する土壤岩石砂粒等の所在を説明するは地質學の專攻する所なれば是より我邦土を構成せる地質の大躰に關し鑛物に關係せる状態を簡單に記述すべし然ども茲に困難を感ずる事は我邦土を構成せる地質種々錯綜する一事なり之を以て秩序的に其區域を表記すること能はず加之本邦全土の地質は未だ全く審査の手續を経ざるものあり故に其詳細は知るを得ざれど梗概に至ては曩に地質局を設置して研究査察したる結果之に由て以て其大畧を窺ふことを得べし依て今現に採鑛に従事し居る鑛物所在地の地質と鑛物とを略記して以て指導と爲さん

夫れ金銀銅等の諸金屬は多く始原界の結晶片岩太古界の秩父系及び近古界の凝灰岩若くは火山岩中に鑛脈を存せり故に我邦の諸金屬

礦物類所在地



鑛は何れも此世紀に屬せる地質組成中に在り即ち薩摩の鹿籠金鑛陸中の尾去澤金銀鑛は近古界に於ける第三紀凝灰石若くは火山岩より成り佐渡の相川銀鑛但馬の生野銀鑛羽後の院内鑛山薩摩の芹ヶ野鑛山等は火山岩中の石英粗面岩輝石安山岩若くは第三紀の凝灰石より成れるを見て知るべし而して各鑛山に於ける含著鑛物の種類は世紀の差異により皆な異なれり銅鑛にて有名なる下野足尾の銅山は第三紀凝灰岩若くは火山岩なりと云ふ是に由て之を觀れば本邦貴金屬の所在地は何れも以上記載の世紀に屬することを知るべし左に金銀銅鑛の重なる所存地を記せん

- 佐渡雜太郡相川鑛山
- 越後岩船郡相俣金山
- 蒲原郡廣谷鑛山
- 加賀能美郡金平金山
- 越中下新川郡綾金山
- 但馬朝來郡生野鑛山

岩代伊達郡上保原鑛山  
 全北會津郡石ヶ森金山  
 陸中鹿角郡小真木鑛山  
 全 全 十輪田銀山  
 全 全 小坂銀山  
 羽後雄勝郡松岡鑛山  
 全北秋田郡大葛金山  
 銀の産出鑛山(前記金山の名ある所は無論銀をも産出すれば茲に略す)

- 羽後 水澤銀山
- 全 大卷銀山
- 全 田子内銀山
- 全 不老倉銀山
- 石見 大森銀山
- 岩代 半田銀山
- 全 輕井澤銀山
- 但馬 奥屋根銀山
- 全 阿瀬井銀山
- 攝津 多田銀山

礦物類所在地



越前

面谷鑛山

陸前

細倉鑛山

越後

上田銀山

銅の産出鑛山

下野上都賀郡足尾銅山

越後蒲原郡草倉銅山

伊豫宇麻郡別子銅山

備中川上郡吉岡銅山

羽後秋田郡阿仁銅山

伊豫新居郡立川銅山

全仙北郡荒川銅山

石見鹿足郡豊稼鑛山

加賀能美郡尾小屋銅山

陸中鹿角郡尾去澤銅山

物質的開明の基礎たる鐵及び石炭は又本邦に於て多量の産出あり而して其所在各所に散在せり尤も鐵は近來に至て我國に原料の豊富なることを發見したるものにして從來は採掘盛ならず隨て産出額極めて僅少なる爲め到底其需用を満足すること能はず毎年多額の輸入を海外より仰ぎて諸工業の原料を補充し居たる狀況なりき然れども現

今學術の發達に伴ひ學者の研究查察したる結果本邦の地質上鐵原料の無盡藏なることを發見し終に之を用ひて製煉するの企てあり故に雖て九州地方に新設せらるゝ鑄鐵所の完成したる曉に於ては多額の産出あること期して待つべし

抑も鐵の原料たる鐵鑛には砂鐵と鑛石の二種ありて其所在地層を異にせり而して現今本邦にて發見したる鑛石の重なるものは磁鐵鑛を以て最とす此鑛は多く銀銅と同じく大古界中に屬する片麻岩結晶片岩中に産じ其地層に屬するの地は本邦の東北部即ち三陸地方に連亘する阿武隈山系なりとす又砂鐵の産する地層は近古界に於ける第四系統中に存在するなり而して此系中には右の外泥炭砂金等をも含有せり本邦各地の地質は多く此層に富めりと雖も殊に廣嶋の西部地方を以て最とす今鐵鑛所在地の重なる場所を擧ぐれば左の如し

陸中

釜石鐵鑛

礦物類所在地



陸中 大仙鑛山  
 安藝 廣嶋近傍  
 石見 出羽地方

次に石炭の地層に就て之を論ずる時は本邦の石炭層は概ね太古界に於ける石炭系中に挾藏せらる然れども其最も多きは中古界若くは近古界にて新たに成りし地層を最とす先づ中古界にては其上期なる三疊系又は其中葉なる侏羅系若くは末葉なる白亞系中に發生するもの多し而して特に最も多く挾藏せる地層は近古界の第三系に在りと云ふ彼の北海道の炭田及び九州の炭田は皆此層に在りと云ふも不可なし石炭の産出地は左の如し

石狩 幌内炭山 後志 岩内炭山  
 全 幾春別炭山 天鹽 留萌炭山  
 全 空知炭山 盤城盤前郡小野田炭山

全 夕張炭山 全 全 白水炭山  
 肥後 金山炭山 羽後 萱草炭山  
 筑後 三池炭山 羽前 西田川炭山  
 筑前 嘉麻川炭山 越後北蒲原郡蒲原炭山  
 豊前 田川炭山  
 肥前 唐津炭山  
 全 高嶋炭山

右の外鉛安質母仁硫黄石材石油陶土等は其地を構成せる地質に應じて多分の産出あり委細は鑛物産出額表記の部に於て參觀すべし

在動物類所  
 在地

第二節 動物類所在地

動物類を分て二とす陸産動物及び水産動物是なり陸産物とは家禽獸畜蛾蟲の類にして水産物とは概ね魚屬を云ふ而して此等の動物類に關しては其所在を研究するに當り同時に土地氣候飼養等最も之に

動物類所在地



須要なる諸般の外界力即ち動物の生育蕃殖上欠く可らざる物件の多少及び適不適などを論せざる可らず

既に種類の篇に於て動植物に屬する貨物は外界力の適否により益益其品種を増加し若くは漸次其種類を減少せしむるの大略は已に説明せり故に今再び其事由を論ずるは重複の嫌あるを以て以下唯だ簡畧に氣候帯の區別により發生動物に如何なる關係あるやを講ずべし抑も本邦の氣候たる邦土既に南台灣の熱帶地より北北海道の寒帶地をも包含するが故に其間種々の氣候を有するなり之を以て自然動物類の所在頗る錯雜にして吾人は得て之を詳論すること能はず蓋し生物分布の區劃を立て之を論ずるは甚た難事なれば唯だ現在の事實に就き専心考究以て各所に散在する生物類の概畧を解くことあるべし凡そ動物は熱帶地方に於ては其形狀巨大にして寒帶地に在ては矮小なるを常とす然るに温帶地方にては其形態大ならず小ならず殆ん

と其中間に位せり而して魚類は往々之に反するの現象ありて其多數は寒帶國の海洋に群衆し熱帶國海洋に於ては浮游すると尠なし蓋し熱帶國の海洋潮流は魚類の生育に不適當なるによるならん歟魚類の最も多きは温帶國の海洋にして從て其種類亦甚巨多なり是れ海洋温度の高低が直接に魚屬の聚散に大なる關係を有する適例なり殊に著しきは寒熱異なる海洋中にては例へ同種の魚なるも其性質其形狀食味等に必ず差異あるものなり又鳥類に就て論ずる時は温帶地方には鳴禽の類多く熱帶地産の鳥類は羽毛美麗にして形狀亦大なり之に反し寒帶地方に至るに従ひ鳥類漸く其數を減じ僅かに海鳥梟の類に過ぎず益々進で北極南極の地に至れば鳥獸魚屬を問はず動物類の雙影をだも見ざるに至る如斯氣候の寒熱は動物の生育上至大の關係を有せりと雖も動物の分布を支配するは専ら氣候のみと測斷すべからず彼の舊世界の獅子は新世界のヒョーマとなり駱駝は變じて駱馬となる



が如きは決して氣候乃ち天然の作用のみに歸すべからず他に其理由なくんばあらず是則ち人爲の作用上動物の生育に關係ある所以なり故に學者其心して研究するを要す以下本邦固有の陸生動物に就き記するに當り先づ其部類を分たざる可らず即ち陸生動物中家禽の重なるものは雞鶩鵝吐綬雞等にして専ら卵及び肉を給するもの(一)又家畜の重なるものは牛馬豕羊等の四足獸にして肉毛皮角等を給し或は運輸勞役等を助くるもの(二)又家畜は糸を紡ぎて衣服の原料を給するもの(三)となす動物としては尙ほ別に狐鹿狸熊等毛皮角を吾人に給する陸生動物尠からずと雖も茲に之を畧し前三部類に就き順次其所在を講ずべし

第一 家禽 本邦に於て家禽類を飼養して利益あるに至りたるは近く明治維新後肉食の流行に伴ひ年々食用に供する肉類を需用するもの増加せしより原因したる結果にして近來は其飼養殊に甚だ盛なり

最も古來より農家の餘業として廢棄物を利用し多少何れの農家も之を飼養せざるはなかりき故に農業の繁盛なる地に於ては必ず家禽の蕃殖を見る是れ農業家にては飼養上特別の浪費を爲さずして蕃殖せしむるの便あるによりしと且つ夫れ家禽の事たる收利極めて多きとによりて人々大に奨勵せられ其業甚だ盛大に趣けるなり要するに禽類の性たる唯た氣候に寒熱の劇變なく土地の高燥清潔にして飼料たる生草若くは昆蟲に飲くるなく且つ穀物類の各所に散亂しある土地ならば漸々繁殖増加するものなれば其所在地は必ず植物の部米麥豆稗等の生産と運命を共にすべきなり故に後篇米麥生産地の章と對照して之を推斷すべし本邦にて最も盛大なる家禽所在地は常總其冠たり

第二 家畜 家畜も亦家禽と同じく此の業の盛大に趣きたるは維新後のことにして近時は専ら商業取引上の供給に應ずるを得るに至れ



り原來本邦古代に於ては肉食の風習一般に流行し従て牧畜の業其の當時の必要に基き各所に盛大を致したるの跡なきにあらずと雖も中古佛教傳來以後は傳教の趣旨により肉食者漸次減少し従つて牧畜の業微々として振はず牛馬の如き重要な家畜は單に運搬勞役若くは騎乗用として飼養したるに過ぎざりき然るに西洋文物の渡來と同時に肉食者噸に増加し之に應ずるには是非とも本業を奨励せざる可らず且又羊毛を剪りて毛布を織り皮角を取りて器械用に供せざる可らざる等必要は世人を喚起し爰に本業の頭を擡ぐるに至れるなり然れども事業着手後僅にして經驗淺く今尙は幼稚の域に在るを免るゝ能はず

凡そ牛馬羊豕類は温帶生動物なれば其性質酷寒炎熱を嫌へり故に氣候温和なる土地には概ね蕃殖するものなり而して其の飼料の重なるものは穀類及び生草なるを以て家畜の所在地は必ず牧草繁茂して

原野の遠く開けたる地ならざる可らず

抑も本邦現今の牧場たるや其大部は牛馬使用後の放養場たるに過ぎずして飼育蕃殖を計るが爲め設けたるものは極めて稀なり而して唯だこれあるは僅かに政府の設立したるものにして或は軍馬飼育の目的にて設定し若くは牧畜業奨励として民間に標本を指示する爲め特置したるもの等全國に其數九ヶ所あるのみ其他に於て特別に施設したるものあるを聞かず蓋し本業に關する智識未だ全國に普ねからざると資本の豊かならざるとに歸因せずんばあらずそれ本邦各所に於ける牛馬産出の情況は甚だ異同あり而して馬は本邦の中央部に少なくして北海道九州の南部及び本土の東北部中太平洋の沿岸地に多し又牛は畿内以西の四國中國九州琉球臺灣等の地に多く産出し彼の神戸牛として最も有名なるものは中國より出づ又畿内より東北の各地は生育頗る少なし次に豚山羊の類は九州琉球臺灣等の各地方に蕃



殖せり

斯の如く牛馬羊豕等の家畜繁生せる地方は概ね土地の耕作治ぬからずして牧草繁茂する廣地にあり之に反し農耕者の多數なる鋤耕の普き土地即ち關東の平野濃美の平野等にては此業甚だ微々たり今本邦の牧場を擧ぐれば左の如し

北海道、石狩國札幌郡真駒内種畜場

渡島國龜田郡龜田種畜場

日高國新冠郡新冠御料牧馬場

本土、陸奥國北上郡七戸村奥羽種馬牧場

陸前國玉造郡鍛冶谷澤牧場

全 大崎村宮城種馬場

陸中國下北郡三本木牧場

全 南巖手郡瀧澤村巖手種馬場

播摩國加東郡青野牧場

九州 薩摩國谿山郡福元牧場

第三 蛾<sup>○</sup> 蠶<sup>○</sup> 本類に屬する動物は普通蠶天蠶蜜蜂等にして蠶は一個の美麗なる絹糸を吐出し蜂は糖蜜を給するものなり蜜蜂の飼養は本邦に於て未だ發達せざれば之を解説すること能はず依て蠶に就て其所在を研究すべし

蠶は繭として販賣し又は生絲に製して貿易品と爲す蠶の飼養業は近時長足の進歩を爲し著名の特産品たるは世人の能く認識する所なり本邦にて殊に本業は古來より上 皇室を始め執政者類に之を獎勵したるが故に下各地に行はれ大に發達せり然れども其産出額たる僅に内國の需用に應ずるに過ぎざりければ勢ひ其飼料たる桑圃は他の穀菜類に壓倒せられ産地の面積從て廣大なるを得ざりきされど開國後新たに歐米に販路を開きたる以來は需用高俄かに増加し産出の額



も亦巨額に達せり實に本業の盛大なるは現今世界にて有名なるものなり

抑も蛾蟲の性質たる或る特種の氣候を要するが故に他の家畜昆蟲の如く地球上各所に生育するものにあらず之を以て生育地の區域自ら制限あり又之に附帶して最も至要の關係を有するものは桑樹なり彼の桑樹は栽培上或る地味と或る氣候とを要すること蠶と同じ而して本邦の地味と氣候とは此樹の培養に適合するを以て幸に蠶の飼料を充分に給することを得るなり是れ天賦の恵と云はざる可らず尙ほ本邦に於ける本業發達の形跡を考査する時は一種の現象を呈せり其現象とは何ぞかは本業の繁盛なる土地は農産物の産せざる地方即ち中央内地に於ける其地味は礫确瘠土にして寒氣強く農耕に不適當なる場所にて頗る發達進歩せしこと是なり故に本邦の中央なる信濃上野武藏相摸の地方最も盛なるを見る惟ふに地味肥沃の場所に在ては

農耕を以て人々の生業と爲し敢て他業に従事するの必要なければ比較的の本業に就くもの少なく之に反し農耕に不適當なる土地に住する人々は生計の業務を他に需めざるを得ず由て茲に一大富源たる本業に従事するもの漸く多く遂に今日の如き發達進歩を誘致したるものなるべし是れ乃ち造化の吾人に與ひたる惠賜にして人類に不公平なき適例なりと謂つべし

本業の最も發達したる土地は大畧左の如し

上野國	前橋、高崎、富岡、伊勢崎、
信濃國	上田、松本、松代、須坂、平野、宮田、
岩代國	福島、若松、川俣、二本松、
近江國	坂田、東淺井郡、
甲斐國	甲府、猿橋、
羽前國	山形、米澤、

動物類所在地



武藏國 大宮郷、鴻巣、熊ヶ谷、本庄、

山城國 京都、弓削、

越前國 福井、勝山、

越後國 新潟、長岡、

第四 魚類 次に水産動物に就て説明すべし水産動物とは鹹水淡水又は鹹淡相間いる所に産する總ての魚屬を含有せり

本邦の地勢たる南は臺灣より始まり北は阿頼嶋に達す此間四面皆海を遶らすのみならず中間所々に海峡の存在するありて各陸地を分離し爲に海岸線は非常の長さを有せり故に此等の環海若くは河流中より出す所の水産物は實に巨大なるものにして其種類亦極めて多きは世人の既に認識する所而して北海道沿岸地方の如きは世界三大漁場の一にして夙に歐米人の羨望する所なり本邦の水産物に富めるは天然の位置之をして然らしむるものにして近海に漁利の多きは敢て

怪しむに足らざるなり

夫れ海洋は廣漠なり河湖池沼は各所に散在せり此内に産する魚類は實に夥しく此富源をして今後益々増殖の道を講ずるは斯業に従事するもの、日夜専心講究しつゝあるべきは論を俟たざるべければ國富の増加期して待つべし之を以て吾人は本業の將來に於て論究するを要せず是より魚屬の種類と其所在地とに就き畧述する所あらん本邦にて産する鹹水魚屬の重なるものは鯡、鱈、鰹、鯛、鯖、鮓、鱈、牡蠣等にして又淡水重要魚屬は鮎、鮭、鱒、鯉、鰻等なり而して鯡、鱈の類は吾人の食用に供すると多きのみならず農産物の肥料に使用する高實に莫大なるものにして産額亦從て多し原來鯡の産地は畧ば一定しありて大平洋面にては親潮乃ち寒潮の流域地と日本海面にては秋田沖以北にてのみ之を産せり其數は北海道後志の沿岸地を最とす鱈の好漁場は下總の東海岸所謂九十九里濱近傍より常陸に亘る沿岸地なり此



地方にて毎年漁獲する高は甚だ多額にして群衆期節の盛なる時は山を築きて沿岸に寄せ來り一攫万金の收利ありと云ふ又北海道長門肥前三河等の沿海にても多く收獲す水産製造品中本邦の特産に係る鯉節の原料鯉は性來暖水を好みて游泳するが故に暖潮乃ち黒潮の通過する海洋中にて多く漁獲せり而して其産地の重なるものは下總常陸の海面を始め紀州沖瀬戸内海土佐沖及び九州の沿岸は何れも著名なり鯛は暖流を避くるの性あれと好んで黒潮近傍に棲息するを以て其産地は鯉と同一の沖に産せり蝶鮓の類は本邦の諸海岸にて産する普通魚屬なれど其最も多く産するは日本海沿岸と爲す鱈も亦本海洋中の魚屬にして此魚は鯉の如く生棲の境界自ら制限あり即ち日本海に於ても越前敦賀以南には之を産せず先づ北海道を以て第一とし新潟沖之に亞ぐ鮪は内海岸には多く産せずして外洋に最も多し殊に多額の漁獲あるは下總にして九州の五島近傍亦甚だ多し牡蠣は近頃頗る

産出を増加し各所に産せり其最も密生するの土地は東海道及九州の沿岸地とす次に淡水産魚屬なる鮎の産地は本邦各所に散在し各地急流の河川に産せざるはなし殊に有名なるは武藏の多摩川是なり而して唯だ讃州及び流球の河流には古來未だ曾て鮎の産出を見ずと云ふ猶淡水魚屬にて最も産額多く従て水産物中多額に取引ある魚は鮭に若くものなし然るに此魚の産所には自ら制限ありて本邦南部諸國の河流には本魚の産出を見ず而して其最も産出に富めるは北海道なり本道にては石狩灣第一にして十勝日高の海邊を中心と爲せり以上は本邦河海に産する水産動物魚類の概要にして其重なるものを列記せしなり固より本邦の各海岸及び河流には數多の魚屬棲息せるが故に一々之を列擧するは到底なし得べきにわらず依て左に本邦漁場區域と魚屬の種類とを掲ぐべし

北海道海區 本漁業地は北海道各地の沿海漁場を含有し此區域に



北海區

て多く産する魚屬は鱈、鱒、鮭等最も名あり  
本區は北青森、東津輕郡、三厩沿岸の地方より南山口、大津  
郡、向津貝村漁場に至る日本海一帯の漁場を指す。此海洋  
に産する重なる魚屬はまがつを、まいわし、鯖、鱒、はたはた、  
鰯、鱒、鯛等なり

東海區

此區域は北岩手、氣仙郡、廣田村漁場より和歌山、西牟婁郡  
の漁場に至る迄本土の大平洋面に望める漁獲地域にし  
て小笠原群島を包括せり。此漁區は北海道海區に亞げる  
漁場なり。此地に産する重なるものは、まがつを、そうだが  
つを、まいわし、鯖、鮪、文、鱈、魚、秋、刀、魚、鰯、鳥、賊等なり

内海區

本區は福岡上毛郡、宇島の沿岸漁場より香川小豆郡、田村  
漁場に至る瀬戸内海の漁業地なり。此區域にて多く産す  
るは、まいわし、鯖、鯛、鳥、賊等なり

植物類所  
在地

西南海區

此漁場の區域は頗る廣大にして兵庫三原郡より南方大  
平洋面に亘り四國の沿岸を通じ九州の東南漁場より西  
北に至るの地を包含せり。故に其産する魚類多し。其重  
なるものは、まがつを、そうだがつを、まいわし、鯖、鱒、文、鱈、魚、  
秋、刀、魚、鰯、鳥、賊等なり

第三節 植物類所在地

植物も亦動物の如く分て二とす。陸生植物、水生植物是なり。又陸生植  
物を分て農用植物及び森林植物とす。而して水生植物とは昆布、石花菜  
の類を云ふなり

第一 農用植物 凡そ植物繁茂の如何は既に屢々論したる如く氣候  
の差異と地質の構造とに偉大の關係を有せるは勿論の事にして寒溫  
熱の帶別により非常の相違あり。即ち熱帶地に於ては植物の生長甚だ  
迅速にして枝葉頗る繁茂し。綠樹常に青々たり。然るに寒帶地にては樹



木の發生に不適當なるか故に其種類も亦稀少にして唯だ僅かに藓苔地草の生ずるあるのみ植物にして吾人々類に多分の恩惠を給する種類の夥多なるは温帶地に若くはなし是れ氣候の植物生育に極めて適順なると地質の構造其繁殖に適合するとに歸因せずんばあらず蓋し植物は吾人商業家が平素取扱ふべき商品中に於て特に多數の部分を占領する種屬に係り最も肝要なりと謂ふべし殊に本邦國人の衣食住には過半其材料を植物に仰かざるなし抑も農用植物の重なるものは食料衣服の原料を吾人に給し森林植物の大部分は住居の材料を供せり水生植物は農用植物と同じく食用に供すること多し然り而して此等の所在地に就ては必ず外界力の變化に應じて發生繁茂するが故に今先づ農用植物より順次に所在地の大畧を説明すべし

植物の所在地を知るに就ては茲に大なる便宜の存するあり何となれば植物は動物の如く自ら移轉蕃殖するの機能を有せざるのみなら

ず或る植物は其氣候と土壤との如何に由り發生に不適當なる時は自然に枯死して繁生すること能はざるが故に動物の如く所在區々ならず發生區域に自ら制限あれば動物に比し割合に其所在を知るに便なり

寒候は植物の發生に偉大の關係を有すれば以下之を基として其所在を論する筈なれど地質に係ること亦甚だ大なれば少しく普通耕作に適する土壤に就て簡單に説明する所あるべし。

夫れ土壤とは地殼の最上層にして植物根の蔓延し得る部分を云ふなり而して土壤は三層より成り土壤の下に表土あり又其下に底土あり底土は岩石の上に位せり而して植物の主として利用するものは第二層の表土なり元來土壤は岩石の破砕部分と動植物の腐敗物質とより組成せられて常に耕鋤する所のものなれば植物は農用と森林とを問はず皆此土壤の良否により消長盛衰を來すものなり而して土壤の



成立を考ふるに岩石が風化作用によりて分解破碎せられたるものを再び河流風水等の働作によりて低地に漂轉し來り漸次一所に相集りて遂に土層を成すに至る斯くして堆積したるものを沖積土と云ふ尙ほ是と同時に幾多の歳月を経過するに従ひ動植物質の腐敗物自ら其上に集積し茲に良土を形造り以て植物根をして繁茂せしむるなり之を以て地質學者の所謂沖積層に在る土地は植物の發生に於て最も關係深く之れに産出するものこそ吾人商業家の平素取扱ふ貨物なり如斯現今農家の耕耘播種する土壤は河流風水等の働作に基き以て今日在るを致したるものなれば沖積土の所在は何れも河流の沿岸地か又は海岸近傍に在るを常とす然らば則ち農用植物の所在地は必ず沖積土に限ると云ふも敢て不過なかるべし之に加ふるに本邦各所の沖積土は其地の氣候概ね植物の發生に適當するが故に農用植物は此等の土地に於て甚だ豊富なりと謂ふも可なり

土壤の植物に至大の關係あるは更に詳論するの要を見ず以上は唯だ其所在を知るに就て説明したるなり是より進で氣候の區分に基き農用植物の種類と所在とを論究すべし

第一 農用植物 現今本邦の氣候に應じて栽培する所の農用植物を列記すれば大畧左の如し

高温度の地に産する農用植物

甘蔗 甘藷 棉 稻 粟 藍 烟草 無花果 柑橘 蔬菜

中温度の地に産する農用植物

茶 桑 漆樹 稻 麥 荳菽 蔬菜

低温度の地に産する農用植物

麥 馬鈴薯 豆 烟草 葡萄 菜種 糖菜

以上は決して精密なる區別にあらず唯だ重要なる農用植物に就き一斑を示したるものなり而して今此等の區分に従ひ本邦の各地に應



して之を論せんと欲せば先づ其氣候帯を知らざる可らず元來氣候の變化は土地の高低陰陽等により其間甚しき等差あるは總論にて論述したるが如し従て農用植物の繁茂に至大の關係あるは吾人の平素目観する所なり此氣候變化の原因は甚だ多種なりと雖も今其有無に不拘現在の事實を總合して之が區分を爲す時は南中北の三帯と大別し得べし而して南帶地は高溫度を要する農用植物發生の土地にして臺灣琉球諸島九州全体及び四國の南半より紀伊志摩伊勢の南部を含有し且つ小笠原諸島と參遠豆房の南端に亘れる所なり北帶地とは山陰北陸奥羽諸州より北海道千嶋に亘る一帶の地を稱し此帶地にては低溫度を要する農用植物發生す次に中溫度に生ずる農用植物の發生地帯は以上南北兩帶の中間に位して山陽道及び四國の北半畿内又は東山道の南半を含み東海道は殆んど其全部を占領せり之を中帶地と稱す以上三帶の區分は現在の事實に由り種々の狀態を總括して區別を

立てたるものなれば農用植物の所在を知るに極めて適當なる帶別なりと云ふべし然れども茲に學者の注意を要すべきは由來農用植物の或る者は培養耕作法の良否により其生産地の帶別に係らず各地を通じて發生するの一事なり且又沖積土に發生するものも低平地と高地とは自ら其間に差違の生ずべきものなるを之を要するに農用植物の發生地は以上三帶の氣候區別に隨伴するものなるに及ひ沖積土の土地なりと知るべし左に重要種類と所在地とを併記すべし

米 越後美濃、近江、讚岐、播磨、豊前、常陸、伊勢、越前、越中、羽後、羽前、肥後、  
 麥 武藏、尾張、讚岐、下總、和泉、筑後、常陸、上總、安房、等  
 甘藷 薩摩、大隅、肥前、肥後、日向、安藝、下總、上總、武藏、等  
 甘蔗 讚岐、薩摩、大隅、琉球、臺灣、等  
 綿 河内、和泉、尾張、三河、出雲、伯耆、近江、常陸、下總、紀伊、伊勢、等  
 藍 阿波、遠江、三河、尾張、武藏、相模、伊勢、筑前、筑後、讚岐、磐城、常陸、薩



烟草 常陸、薩摩、磐城、阿波、備後、相摸、下野、肥後、下總、大隅、備中、美作等

茶 駿河、遠江、山城、伊勢、美濃、近江、播磨、和泉、日向、肥後、土佐、豊前、武

藏等

桑 武藏、上野、信濃、甲斐、岩代、羽前、山城等

薯蕷 伊勢、伊賀、安藝、備後、攝津、近江、薩摩、常陸、尾張、越前、越中等

豆 武藏、上總、上野、下野、信濃、越後、陸中、陸前、岩代、肥前、肥後等

第二 森林植物 森林植物は本邦到處之が栽培に適せざる地なく火

山岩及び礫礫不毛の土地を除くの外鬱々として繁茂せり森林植物は人類の生活上直接には建築の木材薪炭の材料を給し間接には氣候を調和し及び河流の泉源を涵養するの効あり其直接に諸般の原料となる植物は吾人日々之を取扱ふが故に其所在を精密に研究査察するを要す森林植物にして吾人の常に取扱ふものは其種類甚だ多く枚舉に

追わらず然れども就中左の數種に就き其所在を知ることを得は則ち商業取引上便益尠なからず即ち森林植物の重なるものは松杉檜檜樅榧榲桲檉栗椶櫚樟櫟檜梅山毛櫨等なり

以上の植物は是亦氣候の差によりて各地發生の種類を異にし自ら其繁茂に限界あり之を以て多くの地理學者は各國に植物發生の限度を定め植物帶なるものを劃して所在を明かにせり吾人も亦其例により之を論ずれば本邦の全國を分て熱帶樹帶(一)半熱帶樹帶(二)溫帶低地帶(三)溫帶高地帶(四)高山帶(五)の五帶と爲すを得べし熱帶樹帶は森林植物の發生に極めて適當なる氣候を有するが故に長大なる樹木各所に繁茂せり就中杉檜松樟榲桲等の大木に富めり此帶に屬する土地は臺灣琉球諸嶋小笠原群島を始め四國九州の南端等なり半熱帶樹帶は四國九州の殆ど全部と紀伊畿内及び夫より以東の大太平洋面に沿へる南岸の地方と并に中國より能登半嶋に至る日本海沿岸の地を包括す



本帯には山林の稱すべきもの數多あり先づ九州にては霧島山及東岳等の近傍に森林の蒼鬱たるを見る又紀州には柏松杉檜に富める熊野の山林あり而して豆州天城の山林駿州田代の山林等は其最も著名なるもの也温帯低地帯は松杉樅檜等の蕃殖頗る多く南は半熱帯樹帯に接し北は北本土の北端に到る低地なり乃ち甲府附近の低地關東の平野神通川の平野越後の平野並に奥羽諸大河の沿岸地方は皆此帯中に属せり此帯にて特に良木に富める山林は羽後に在り而して樹木甚だ多けれど伐木運送の便に缺くる所あるを以て深山幽谷に至ては斧斤の未だ曾て入らざる所尠からずと謂ふ又稍本土の中央に近き阿武隈山系に連亘する日光山の近傍には杉檜等の巨大なるもの有り温帯高地帯は樹木豊富の地帯にして九州四國中國及び大和南部の高地を始め木曾の高地阿武隈北上兩山系の高地を稱す此地に在る木曾の山林は世人の普く知る所にして檜樅樅杉松樺等の老樹大木全山を蔽ひ

木質緻密全國に冠たり越中の立山遠州の千頭山大和の吉野山等は同しく此帯に在りて巨幹大樹翁鬱として繁茂するもの數里に亘り頗る多量の良材を出す高山帯は雪山富士赤石等の山頂地にして唯た矮少の樹木發生するのみなり

今官林民林を問はず良材に富める本邦各所の重なる山林を列記すれば左の如し

青森 陸奥國津輕郡外濱下北郡田名部地方

秋田 羽後國秋田近傍

宮城 陸前國玉造郡鬼首近傍陸中國閉伊郡岩手郡近傍

石川 越中國新川郡里部谷近傍越前國大野郡今立郡近傍

静岡 遠江國龍川上流地方駿河國富士郡近傍三河國北設樂郡地

方

長野 信濃國木曾近傍全國安曇郡近傍

植物類所在地



鹿兒嶋 大隅國霧島山近傍肥後國天草郡近傍

東京 武藏國秩父郡三ツ峯村近傍伊豆國天城山近傍

北海道 膽振國長良川近傍

第三 水産植物の重なるものは昆布にして此植物は三陸沿岸及び北海道に多く産す常に暖流區域に産する石花菜羊栖菜の類は黒潮通過の海洋中に産す黒菜搗布は本邦の中部加賀及志摩の海に多く又海苔裙帶菜は其分布甚だ廣く就中海苔は東京最も著名なり

第四節 各種製造品所在地

凡そ製造品の所在地として認識すべきの土地は人民の集合せる都會の地ならざる可らず而して其基く所は都會の地たる必ず其近傍に農耕の生産地を擁し原料を仰ぐに便利あるは勿論交通運輸の利極めて多く之が爲め製造品をして彼此移轉し得るの衝に當るのみか凡百の製造業に従事すべき職工の多數を有し且つ資本を收合すると甚だ

各種製造品所在地

容易なる等の諸原因あるに由るなり殊に近來工業の術頗る發達し其進歩の著大なるに連れ是迄の手工製造所謂小工業は漸次其跡を潜め器械工業即ち大工業代りて位置を占め所々に大工場の設置せらるゝもの年毎に増加す而して之を運轉使用するには必ず大資本と熟練なる技術者とを要するが故に勢ひ都府に來て斯業を企圖するの傾向を招致せるなり往昔に在ては社會人民の嗜好自然低度にして粗製産物に向て加工するに單純なる機具の幫助を以て社會の満足を購へ得たりと雖も近來は社會の需用屢々として増加し且つ曩の粗造にては用務を便せず製造品も複雑精巧に進み來しかば必要は世人をして考慮を惹起し於是乎熟考試験發明又は偶然の恩惠等により幾多の發明改良を促し懸て舊來の小工場は一大製造所となり種々の機械は單純なる手道具を驅逐し製造所は手工場を驅逐せり如斯して漸次製造業は人員稀少の村落を去て都會の地に集合し以て今日の繁盛を致した

各種製造品所在地



るものと謂つべし

抑も本邦に於て工業地を以て目せらるゝの地は重に畿内の地を以て然りとす而して其繁盛を致したる原因多々あり夫れ洋の東西を問はず人種の異同を論せず地球上に國を成す者は之か執政者若くは主権者の在住する所則ち文華の中心と也美術の淵藪となり自然的に住民をして優美の心を養成し嗜好亦高尚に赴き意匠にまれ技術にまれ必ず全國の模範を作出し是より四方に傳播し以て各地方の人心を風靡するに至るは各國歴史の證明する所なり之を以て本邦に於ける各種工藝の事業は平安後帝都たりし京都を以て中心とし且つ又近傍に於て頗る發達し技術精巧意匠緻密を極め彼の織物の如き内外に其名を轟したり然るに維新の始め帝都を東京に遷し全國の政令之より出づるに當り爾來製造工業發達の趨勢一變し世の嗜好は概ね東京より漸次京阪地方に傳播するに至れり社會の狀況既に斯の如くなれば大製

造工業は自然帝都に集り來り先づ模範を此地に採りて製造業を創始するもの續々隆起し遂に製造所の所在地と爲れるなり最も大阪の如きは歴史的關係と云ひ地理的關係と云ひ種々の便益を有するのみならず古來より商業を以て發達し來りたる土地柄だけありて製造工業も亦盛大を極め其資本の多さと職工の多數なるとは首都東京を凌駕するの狀態なり是れ本邦に於ける製造品所在地として屈指すべき要点なり尙且つ大阪の地たるや淀川平野の西端に位し且關東地方に比し幾分か進歩發達せる關西地方の貨物の集散する樞要區に當れるを以て諸工業の原料を得るにも便且つ利あり尙ほ其製造工業品を各所に分配するに最も適當なる位置を占め居るより今日の繁昌を致したるなり特に大阪が製造業に適當する所以の理は神戸港を前に扣へ且つ一葦水を隔つる支那國に接近するが故に製造品は常に彼四億萬の人口を有する一大富國に輸出し又廉價なる製造原料を彼處より輸入



し得るの至便を有すればなり

之を要するに製造業の繁盛なる土地には製造品の多數なるは勿論にして普く世人の是認する所なり且製造業の發達すべき土地は廣濶にして繁盛なるものなり乃ち土地繁盛なれば人民集合し人民集合すれば人々日常使用する所の物品多く物品多ければ従て副産物品の世に併出するもの多く此等の物品は製造業の原料となりて工業者を利すること尠なからず既にして人民の集合地には技術者多きのみならず資本金諸般の便利上亦此等の土地に居を占むるもの多ければ製造品所在地と見做すべき土地は以上記載の事項より推論して之を知ることとは容易なるべし而して本邦に於て右の諸項を具ふる地名を擧ぐれば前記載したる東京大阪を除き各所に數所あり今其重なる土地と製造品目の概要とを掲ぐれば左の如し

武藏國東京 各種製造機械 セメント 煉瓦石 蒔繪細工

團扇扇子	漆器	海苔	金屬器
硝子	茶	七寶器	金屬箔
墨筆	麥酒	紙	毛織物
攝津國大阪	寒天	蠟(生晒)	硫酸
	菜種油	セメント	刻昆布
	摺附木	紡績糸	清酒
	麥酒	ユークス	時計
山城國京都	陶磁器	絹織物	染物
	漆器	繡綉	茶
	扇子及扇團	鍍線	絹紡績糸
	金銀箔		
尾張國名古屋	陶器磁器	七寶器	織物
	菜種油	紙	紡績糸
			眞田紐(麥)

各種製造品所在地



攝津國神戸	西洋紙	竹細工	燐寸	石鹼
屏風				
加賀國金澤	陶磁器	絹織物	紙	象眼細工
麻織物	鐵銅器類			
陸前國仙臺	絹織物	埋木細工	行李	
紡績糸				
安藝國廣島	鐵類	傘	算盤	紡績糸
燐寸軸水	花吳座			
薩摩國鹿兒島陶磁器	燒酎	麻織物		
絹織物	錫器	紡績糸		
鯉節	刻烟草			
石狩國札幌	セメント	麥酒	砂糖	麥粉
麻織物				

越後國新潟 絹織物 石油

### 第六章 各種商品の生産高及輸出高

各種商品の  
生産高  
及輸出高

既に前章に於て各種商品の所在に就き大略之を論せり依て本章に於ては本邦に産出する商品の數量及び其輸出高を記載すべし而して其産出數量の多寡輸出金額の増減を生ずる原因は前章にて重に之を土地の狀況即ち天然力に歸して議論討究したり然れども右にては未だ盡さる所あるを以て茲に再び各商品を大別し曩に取遺したる人為的の關係上より生産品の増減變化を來す理由と輸出高に盛衰消長ある理由とを解説し然る後其高を掲ぐべし

抑も生産數量及び輸出數量は動植、礦物品并に工作品等の各種類により其原因を異にすべきや論を俟たず尤も以上の各種類に通じ最大原因の一と見做すべきものあり即ち人文の發達進歩是なり蓋し人文

各種商品の生産高及輸出高



の發達進歩は學術研究の結果にして理化學上に於ける各種の新發明は其最も著名なるものなり實に理化學上の發明は古人の未だ曾て知らざる新事物を闡明し由て以て社會の人類に一層高尚なる慾望を與へ殆ど天然力を凌駕するの功績を顯はすことあり且つ社會の文明に進むに隨ひ之を助くるに資金と勢力とを以てす故に一旦天然力に打勝たる後は物として得られざるなく凡そ物として得られざるなくんば益々其重積容量を増加せんと欲するの念續起するは理の當然なり而して斯の如きは最も見易きの事實にして敢て實蹟を掲ぐるの必要だになく其例証目前にあり即ち近世に至り汽車電信等の事業に於て著く改良進歩を促したる所以にして之を商品に就て云へば紡績糸及び絹織物等をして益々其精巧を極めしむるに至りたる事是なり故に人文發達の産業上に及す影響に至りては之を輕々に附すべからざるを見るなり

是に由て之を觀れば各商品の生産量及輸出高の年毎に増減變化ある理由は蓋し以上論したるが如く天然力と人力との二者の配合に歸着するものなるを知るべし故に平素彼此の情勢を參配折衷して之を明解するの注意を怠る可らず若しそれ天然の作用と人爲的の勢力との關係を討究し其理を咀嚼玩味して徐ろに統計數量に照合し以て將來を推す時は常に數量上の智識を擴充して商品仕入地を迅速に見出し得るのみならず物價高低の生ずる理由をも同時に推測判斷するを得べきなり

第一節 各種商品の生産高増減の理由

是より動植礦物商品の三種に分ちて逐次説明を加ふるに當り了解し易からしめん爲先つ生産高増加の原因を討究し然る後減少の理由を解くべしされど生産減少の方面は是れ即ち生産増加の反對なるが故に之を省畧することあるべし礦物生産高増減の原因數多あり然と

各種商品の  
生産高増減の  
理由



も之を詮する時は蓋し左の二原因に歸すべし一は採鑛精煉等に要する機械の整否と二は労働者の多少是なり抑も鑛業なるものは非常に機械と勢力とを籍るものにして或る鑛産品を市場に運出して販賣に供するまでには頗る複雑を極むるものなりされば現今に在りて斯業に従事するものは成るべく人力を省きて最多の産額あるを希望し日夜機械などの改善に苦心しつゝあり又目下の事情は苦心せざるを得ず殊に労働者少なき土地か又は労働賃金の高貴なる地は最も此感深し之を以て諸機械の完全を計るには多額の資本を要するか故に是迄小資本にて各自の狭小事業に従事し居たるものも時勢の必要に驅られて各協同し以て斯業を營めり而して現今は右の如く爲すを以て最も利益あることを認めれば益々規模を擴め諸機械の適用を勵行するの有様なり尙ほ且精良の上にも精良を冀ふの結果資金を吝まらず勞力を厭はず競ふて改良の域に進みつゝあれば近來頗る其の生産高を

増加せり實に諸機械改良の効果は單に生産額を増加せしむるに留まらず是迄は不用物と見做し廢棄して顧みざりしものをも偶然の事情により用途を發見することあり而して機械に亞て此種の生産高を直接に支配するものは労働者の多少にして若し一朝事變起り今まで鑛業に従事しつゝありし労働者が之が爲に他に使役せらるゝが如き場合の生ずる時は獨り機械の改良あるも生産額を増加すること能はざるべし何となれば諸機械を運轉操縦するものは労働者なればなり尤も事業家は人力を省くが爲め諸機械の改良を計畫するものなれば其精良に伴ひ人力を要すること比較上少なきは自然の勢なりと雖も斯業に在ては發掘と云ひ運搬と云ひ重に人力を要すること多ければ則ち労働者の多少は大なる關係を有すること明なり

終に臨み特に注意を要すべきの一事は諸機械の改良進歩たるや鑛に鑛物生産品のみならず動植鑛の三物を原料として製作する製造



品の増減も亦之に支配さるゝものなり勿論茲に諸機械と云へるは採  
 鑛冶金の機械を始め製造品に使用する諸機械を含有するものなり而  
 して此種の改良進歩は鑛産物と同一の進路を保つものなりと知るべし  
 次に掲ぐる鑛物生産中二十八年度に於ける内國生産高は前五ヶ年  
 間に於ける平均生産高より概ね多額なり而して其増加の原因に就て  
 は以上論したる二大原因のみならずは勿論なるも詮する所近來學  
 術の發達に伴ひ諸機械に改良を加へたると其重なるものたるや疑ふ  
 可らず

鑛物屬商品生産高及輸入高表 (符合は無を表はし△は二十七年×は)  
 (四ヶ年平均高を表はせるなり以下同じ)

品名	内國生産高		廿八年度 輸入高	廿八年内國生産 高及輸入高合計
	五ヶ年平均高	二十八年度		
銅	三、九三〇、四三斤	三、八三三、〇三斤	一九、六〇斤	三、八五〇、三三斤

生、丁銅類	管銅	鐵塊	鐵塊	金	銀	鉛	安質母尼	精製安質母尼	硫化全	滿	滿	硫	錫	亞	綠
三、八三三、〇三斤	三、三三三、四三斤	三、三三三、四三斤	三、三三三、四三斤	九七九、〇〇圓	三、三三三、四三圓	一、六七七、七五斤	二、九三三、七五斤	七六三、三六斤	二、一四〇、四七斤	三、四〇六、六三斤	一、三〇六、六三斤	三、三三三、四三斤	三、三三三、四三斤	三、三三三、四三斤	一、三〇六、六三斤
三、八三三、〇三斤	三、三三三、四三斤	三、三三三、四三斤	三、三三三、四三斤	一、一〇八、四〇圓	二、八八九、六三圓	三、二四四、五二斤	二、八〇五、七五斤	七五、七五斤	二、〇五三、九七斤	二、五三〇、〇六斤	二、五三〇、〇六斤	二、五三〇、〇六斤	二、五三〇、〇六斤	二、五三〇、〇六斤	二、五三〇、〇六斤
三、八三三、〇三斤	三、三三三、四三斤	三、三三三、四三斤	三、三三三、四三斤	一、〇三九、八〇圓	二、三三四、三九圓	五、三〇五、九三斤	二、八〇五、七五斤	七五、七五斤	二、〇五三、九七斤	二、五三〇、〇六斤	二、五三〇、〇六斤	二、五三〇、〇六斤	二、五三〇、〇六斤	二、五三〇、〇六斤	二、五三〇、〇六斤
三、八三三、〇三斤	三、三三三、四三斤	三、三三三、四三斤	三、三三三、四三斤	二、二八八、二八圓	五、二〇四、三三圓	八、五五〇、四九斤	二、八〇五、七五斤	七五、七五斤	二、〇五三、九七斤	二、五三〇、〇六斤	二、五三〇、〇六斤	二、五三〇、〇六斤	二、五三〇、〇六斤	二、五三〇、〇六斤	二、五三〇、〇六斤

各種商品の生産高増減の理由



水	二、五五斤	八〇〇斤	二、五五斤	二、五五斤
石	三、四三、五三瓦	五、九八、八〇瓦	四、二五、四四瓦	五、二三、二四瓦
石	三、三九、五〇七噸	四、七六、七〇噸	六、九三噸	四、八五、六〇噸
炭				
油				
銀	△			

第三〇 生産高 植物に屬する商品に在ては鑛物と大に其趣を異にし生産高増減の原因は重に土地の改良栽培の良否農林制度の善惡に關係せり則ち植物は土地に播殖せしめて之を收納するものなれば地味の適不適は最も此種の産出高に影響すると明白なり故に斯業に従事するものは力めて地味を肥饒ならしめざる可らず蓋し土地は各人の丹精によりて荒蕪を變して良地と爲すを得べければ耕耘宜きを得て以て收穫物を多量ならしむる事を得べし又土地の改良と同時に穀類野菜樹木竹草等の栽培方法に注意し種子の交換培養の季節等を誤るなくんば漸次生産高を増加すると疑を容るべきにあらず且つ之に伴ひ農林制度を整備し不時の採伐を嚴禁し樹木の涵養に心を盡し斧斤

時を以て入るが如き便利の方法を講せば益々完全の域に到達し到る處に森林の翦斫たるを望み得るのみならず必要に應して之を採伐し國富の基と爲るや論を俟たず然るに右に反し土地は天然力に委して顧みず樹木竹草の涵養を圖らず穀類野菜の栽培に手を盡さずんば假之土地は廣大の面積を有するも將た氣候の適順あるも到底良効の成績を得ざるや見易きの道理なり良効の成績なきは則ち生産高の減少を示すものにして本種商品の生産に就ては特に氣候の關係を有するは多大なる事實なり其理由は第一章第四節に於て論したるが如し之を以て産出額増減の原因として右三原因の外天然の作用即ち氣候の適順も亦極めて密接の關係あるものと知るべし

植物界商品生産高及輸入高

品名	内國生産高		廿八年度輸入高	二十八年內國生産高并輸入高合計
	五ヶ年平均高	廿八年度		

各種商品の生産高増減の理由



米	粳米	糯米	陸米	麥	大麥	裸麥	小麥	豆	大豆	小豆	煙草類	葉煙草	卷煙草	紙卷煙草	刻煙草	其他煙草類
三九,四一五,〇八石	三五,六三八,二七五石	三,五〇八,一六五石	二六八,六四八石	一五,二五八,六七石	七,二七八,二七石	五,七〇〇,七九三石	二,三四七,六四石	三〇,三三三,三七石	五〇,〇二七石	七五,〇四三,三五圓	七五,〇四三,三五圓	七五,〇四三,三五圓	七五,〇四三,三五圓	七五,〇四三,三五圓	七五,〇四三,三五圓	七五,〇四三,三五圓
三九,九〇,八八二石	三五,九〇,九八二石	三,六二四,二〇五石	四〇四,六六石	一九,五三六,二三石	八,五三六,七〇石	七,〇二五,七〇九石	三,九七三,六四四石	三,一六三,六三石	六二五,六五石	六八,八〇〇,三七圓	六八,八〇〇,三七圓	六八,八〇〇,三七圓	六八,八〇〇,三七圓	六八,八〇〇,三七圓	六八,八〇〇,三七圓	六八,八〇〇,三七圓
七〇七,八四八石	七〇七,八四八石	七〇七,八四八石	四〇四,六六石	一九,五三六,二三石	八,五三六,七〇石	七,〇二五,七〇九石	三,九七三,六四四石	三,一六三,六三石	六二五,六五石	六八,八〇〇,三七圓	六八,八〇〇,三七圓	六八,八〇〇,三七圓	六八,八〇〇,三七圓	六八,八〇〇,三七圓	六八,八〇〇,三七圓	六八,八〇〇,三七圓
四〇,六二六,七〇石	四〇,六二六,七〇石	四〇,六二六,七〇石	四〇,六二六,七〇石	一九,五三六,二三石	八,五三六,七〇石	七,〇二五,七〇九石	三,九七三,六四四石	三,一六三,六三石	六二五,六五石	六八,八〇〇,三七圓	六八,八〇〇,三七圓	六八,八〇〇,三七圓	六八,八〇〇,三七圓	六八,八〇〇,三七圓	六八,八〇〇,三七圓	六八,八〇〇,三七圓

茶類	礮茶類	玉露茶類	煎茶類	紅茶類	烏龍茶類	番茶類	砂糖類	白砂糖類	赤砂糖類	白砂糖類	黑砂糖類	糖密及糖水	氷及精製糖	漆汁類	大麻類	大類
七,三三三,三五貫	七,三三三,三五貫	六九,五二八貫	四,九四三,一〇九貫	四〇,二九七貫	一一,五三六貫	二,三〇四,五五貫	一四,七九九,三七貫	五,九二一,七〇貫	一,七六六,五五貫	一五二,七六貫	六,〇八九,三三貫	八七九,六〇貫	三,三九七貫	三,三三三,〇九四貫	三,三三三,〇九四貫	三,三三三,〇九四貫
八,六九八,七八貫	八,六九八,七八貫	五,五三三貫	九一,二〇六貫	六,二五七,一〇七貫	五,三〇四,二貫	二,三七七,九八貫	二,八三三,〇七貫	五,四三六,三八貫	一,一五〇,五七貫	七,七九〇貫	三,八四一,五五貫	六三三,八四七貫	四〇,五二六貫	三,三三三,〇九四貫	三,三三三,〇九四貫	三,三三三,〇九四貫
一〇,六七〇貫	一〇,六七〇貫	一〇,六七〇貫	一〇,六七〇貫	一〇,六七〇貫	一〇,六七〇貫	一〇,六七〇貫	一〇,六七〇貫	一〇,六七〇貫	一〇,六七〇貫	一〇,六七〇貫	一〇,六七〇貫	一〇,六七〇貫	一〇,六七〇貫	一〇,六七〇貫	一〇,六七〇貫	一〇,六七〇貫
八,七〇〇,四五貫	八,七〇〇,四五貫	八,七〇〇,四五貫	八,七〇〇,四五貫	八,七〇〇,四五貫	八,七〇〇,四五貫	八,七〇〇,四五貫	八,七〇〇,四五貫	八,七〇〇,四五貫	八,七〇〇,四五貫	八,七〇〇,四五貫	八,七〇〇,四五貫	八,七〇〇,四五貫	八,七〇〇,四五貫	八,七〇〇,四五貫	八,七〇〇,四五貫	八,七〇〇,四五貫

各種商品の生産高増減の理由



菜種油	線種綿	綿屑糸	綿縫糸	綿織糸	漆器類	醬油	清酒	石花菜	昆布	棉花	菜種	乾藍	葉藍	藍類	苧麻
未詳		二三、四四貫		九、六七、二九八貫	二、五四、七〇圓	一、三六、八六石	三、四三、一〇九石	一、二〇八、四七貫	六〇、四三貫	一、〇〇六、六二貫	一、〇〇六、六二貫	一六、〇八七、三三貫	一六、〇八七、三三貫	一六、〇八七、三三貫	一六、〇八七、三三貫
				一八、四二、〇九四貫	一八、六三、九七貫	一、四九、五九石	三、九七〇、二八九石	九、九、一八七貫	四八、四三貫	九、九、九七貫	一〇、四八、五九貫	一七、三三、三四貫	一七、三三、三四貫	一七、三三、三四貫	一七、三三、三四貫
				二、三三、〇九貫	二、四〇、八〇貫			六三、四三貫	一、八八、〇三貫	七二、〇八貫	九、九、九七貫	一三、三九、五三貫	一三、三九、五三貫	一三、三九、五三貫	一三、三九、五三貫
				三、三、〇六石	三、八七、二〇貫			三、九七〇、二八九石	四八、四三貫	九、九、九七貫	一、〇〇六、六二貫	一六、〇八七、三三貫	一六、〇八七、三三貫	一六、〇八七、三三貫	一六、〇八七、三三貫
					二、三三、〇九貫			一、四九、五九石	四八、四三貫	九、九、九七貫	一、〇〇六、六二貫	一六、〇八七、三三貫	一六、〇八七、三三貫	一六、〇八七、三三貫	一六、〇八七、三三貫
					二、三三、〇九貫			一、四九、五九石	四八、四三貫	九、九、九七貫	一、〇〇六、六二貫	一六、〇八七、三三貫	一六、〇八七、三三貫	一六、〇八七、三三貫	一六、〇八七、三三貫
					二、三三、〇九貫			一、四九、五九石	四八、四三貫	九、九、九七貫	一、〇〇六、六二貫	一六、〇八七、三三貫	一六、〇八七、三三貫	一六、〇八七、三三貫	一六、〇八七、三三貫
					二、三三、〇九貫			一、四九、五九石	四八、四三貫	九、九、九七貫	一、〇〇六、六二貫	一六、〇八七、三三貫	一六、〇八七、三三貫	一六、〇八七、三三貫	一六、〇八七、三三貫
					二、三三、〇九貫			一、四九、五九石	四八、四三貫	九、九、九七貫	一、〇〇六、六二貫	一六、〇八七、三三貫	一六、〇八七、三三貫	一六、〇八七、三三貫	一六、〇八七、三三貫
					二、三三、〇九貫			一、四九、五九石	四八、四三貫	九、九、九七貫	一、〇〇六、六二貫	一六、〇八七、三三貫	一六、〇八七、三三貫	一六、〇八七、三三貫	一六、〇八七、三三貫

木綿織物	紙類	摺附木	麻織物
一九、八六、三三圓	八、〇六、二七圓	三、七三、四八圓	二、四四、二九圓
三、〇八、三三圓	九、二六、五五圓	五、五〇、三三圓	二、〇二、四七圓
未詳	八八、五三圓	四、三三圓	三、四、三六圓
三、〇八、三三圓	九、九四、六三圓	五、五〇、三三圓	二、三九、八五圓

第三〇 動物は謂ふまでもなく鑛物の如く地中より之れを掘り取らず又植物の如く土地に之を栽培せず何れも皆多くは地上に生活して自由の運動を爲しつゝあるものなれば増減の理由自ら異なるどころあり而して増加の重なる事項は保護の厚薄及び飼養法の如何に在り凡そ動物の繁殖上保護の必要なるは魚類に於て最も其然るを見る牛馬羊豕の如き動物は最初より所有主の存するありて人々随意に捕獲使用すると能はざるが故に單に盜難又は野獸の外襲等より之を保護するの外特に深き注意を要せざるべけれど魚類に於ては然らず河海湖水等に生息するものは或區域を除くの外最初より一定の所有主なく人々は擅に之を捕へて食用に供し若くは販賣するを得故に魚類の

各種商品の生産高増減の理由



棲所なる海河の近傍に住居するところの漁民は絶へず魚介の捕獲に従事し以て生業を營めり元來魚介の集散には自ら季節のれば其時季を見計らひて捕獲に従事する時は一定の場所に於て生業を續け得べしと雖も浮游常なき魚類の事なれば捕獲を恐れて近岸を離るゝものなるか故に漸次遠洋に航せざれば漁獲なきに至る且つ一方に於ては人々随意に捕獲し得るを以て漁獵に便利なる河海に棲息する魚介は網して遺すなきに至る故に之を自然に放任して保護の方法を講せずんば終に魚類の絶滅するに至るや知るべきなりよし又絶滅せざるべきも年毎に捕獲の量に於て減少ある事疑なしされば豫め魚介保護の途を講じて魚類を増加せしむるの方法を施すこと肝要なり又飼養法の如何は保護と相須て動物の蕃殖上に至緊の關係を有するが故に保護と飼養との兩途にして完全ならんには生産量又従つて増加し之に反せば減少するものなり

動物界商品生産高及輸入高表

品名	内國生産高		廿八年度輸入高	廿八年度内國生産高并輸入高合計
	五ヶ年平均高	廿八年度		
牛牝牛	一、〇七六、七四頭	一、二二六、七八頭	三〇五頭	一、二二六、五八頭
馬牝馬	三三七、三三頭	六二二、〇六頭	三〇五頭	一、二二六、五八頭
馬牝馬	四二、四三頭	四四、〇七頭	〇頭	一、二二六、五八頭
馬牝馬	一、五七、五八頭	一、五〇、六三頭	〇頭	一、二二六、五八頭
牝馬	八五、七三頭	八三、五七頭	〇頭	一、二二六、五八頭
牝馬	七〇〇、六六頭	六八、〇六頭	〇頭	一、二二六、五八頭
牝馬類	一、四六〇、〇〇石	二、五八、一七石		二、五八、一七石
玉繭	一、四、九一石	一、七六、〇〇石		一、七六、〇〇石
玉繭	一〇、五五石	二四、九三石		二四、九三石
玉繭	二九、八三石	一三、七四石		一三、七四石
玉繭	四、八〇石	五、三六石		五、三六石
生絲類	一、九七、六六貫	二、六〇、〇七貫	二四、五五貫	二、八四、五二貫
生絲類	一、二六、〇〇貫	一、五八、三〇貫	三、八六貫	一、五八、三〇貫

各種商品の生産高増減の理由







まれ製造品にまれ總て此等を生産造出して社會に供する所以のものは要するに社會多數の需用者が當事者を獎勵鼓舞する所ありて益々其量を増加せしむるの後援あればなり故に世の需用力と稱するものは自ら生産事業を促して活潑なる取引を惹起せしむるものなれば吾人は始終此點に注意し物品増加の上に於ける各種の原因を詳知し以て商業家の任務を了すべきなり

右に記載したる統計表は本邦内にて生産したる物品の數量と海外より輸入したる數量とを併記したれば此合計數量は内國にて使用する若くは消耗し得べき數量と再び海外に輸出し得べき數量とを含有するや明なり且つ言を換へて之を云は、此合計數量は如何なる用途に應用するものなるか外觀上誠に判別し難けれど兎に角人々の欲望を満すが爲めに使用し及び消耗し得べき數量なりと云ふべし今又更に進で右の合計數より海外へ輸出したる數量を減したる殘數は内國に

て用ゆべき數量なりと論斷して大なる誤なかるべし之を以て後節輸出の部に於ては内國需用の數量としてこれを記載したり

## 第二節 各種商品の輸出高増減の理由

凡そ一國內に生ずる物品の輾轉移動するに當てや種々の行程を経過せざる可らず則ち始めは生産者より仲買商に移り仲買商より小賣商に渡り小賣商より需用者に轉ずるは普通の手續なり然れども國際貿易に於ては更に複雑なる手續を要す故に外國に對する取引は内國取引に比し物品移動の際關門通過等の手續自ら雜多なれば其手續上大に趣向を異にする場合あり手續上の煩雜は冗費を要し冗費は物品をして高價に至らしむ物品の高價は需用の途を塞ぎ其取引をして自然衰頽せしをるの傾向あるを免れず最も物品をして高價ならしむるの原因は勿論斯る單純なる理論のみにあらず他に其原因數多ありて價格の高低を支配する者なりと雖も兎に角物價の騰貴は需用を減少

各種商品の輸出高増減の理由

各種商品の  
輸出高  
増減の  
理由



し延て輸出額に影響を及ぼすと明かなり而して物價の騰貴により需用を減少する傾向は内國取引に於て更に著しき惡結果を商業の上に及ぼし管に商業取引のみならず總ての事業之が爲に不振に陥り遂に社會一般の不景氣を醸すに至る然り而して世の不況に趣くは獨り物價の騰貴に歸する能はず其所因雜多にして枚舉に遑あらざれども本論は之に關係せず且又相場高低の篇に於て詳論すべければ姑く之を略し唯だ本篇に密接の關係を有する物價の騰貴したる後の情態が輸出品に對し如何なる影響を及ぼすかに就て論究する所あらん

既に述べたる如く内國取引に於て物價の騰貴は延て社會一般の不景氣を醸すは經濟社會に於ける常態なると夙に世人の認識する所なりされば殊に商品が關門通過等の手數多き外國貿易に在ては更に一層の非運を誘起し需用の減少となり茲に輸出の一頓挫を招くなり之を實例に徴するに先年本邦に於ては戰勝の結果一時市場の繁榮を極

め諸取引とも非常の好景氣を呈したり則ち廿八年の當時は比較的輸出の盛大となり戰勝國の物品として海外に需用多く其額巨大に至りたりしも其後諸事業の勃興に連れ内地の賃銀騰貴し漸次物價の上に影響を及ぼすに至るや遂に輸出の減少となり甚だ不振を極めたり如斯近々數年の歲月間にして輸出額の増減常ならず不絶一進一退を免れざる其所因は要するに物價の騰貴なりしと疑ふ可らず之を以て物價の低落は輸出を盛にし騰貴は輸出を阻害するものなることを知るべし

右の外輸出高増減の原因たるもの尙ほ三あり則ち左の如し

(第一)偶然の事件

(第二)海外市場の情態

(第三)貿易方法の難易

第一。偶然の事件は種々ありと雖とも輸出に最も大打撃を蒙るは戰爭是なり實に戰爭なるものは商業界の大敵にして一朝此事變に襲は



る、時は諸般の事業跡を潜め市場は暗澹たる光景を呈するに至る故に此災に罹りたる時代は輸出貿易衰微の極と云はざる可らず何となれば戦争なるものは一國の運命を賭して勢力の消長を争ふものなれば國民皆警戒を加へ所要の物品を節し冗費を省き之を移して軍費の用途に宛て以て自國の勝利を祈願するは苟も國家の體面を維持せん事を勉むる國民の覺悟なれば延て商業上に影響を及ぼすのみならず尙且つ人心恟々たるを免れされば業務に専心すると難く壯丁は之が爲に兵役に従事し交通は閉塞し茲に商業諸機關の中止と爲るは甚だ見易き情態なり然りと雖も或る國に於ては驚天動地の事變即ち戦争なるものを利用し以て世人の情眼を警醒し之を奮起せしめ戦勝の結國果威を海外に發表し之を動機となして輸出貿易を盛大ならしむる事なきにあらず勿論此事たる甚だ稀有の事件にして到底冒險たるを免れざるも自國の産業を喚起し海外貿易の利を占めんが爲め其目的

を以て事を海外に構へたるの例は各國の歴史上散見するところなり然り而して此等の手段たるや固より不正の謗あるを免れずと雖も其目的を貫徹したる邦國にては貿易上不尠効果を奏し大に國富を増進したるものありされば或る點より觀察する時は戦争は一概に商業上の警敵と見做し難き點あらんかなれども輸出の繁盛は戦争後の出来事なれば何の道戦争當時に在ては貿易の衰頹するを免れず是れ戦争の輸出貿易に阻害ある所以の大略なり

第二。海外市場の情態とは海外に於ける交通の便否運賃の高低金融の動靜流行品の變遷主産物の豊凶或は競争國の情態等を意味するものにして此等は時々刻々變化しつゝあり則ち輸出物品に對する競争國は自國の産物をして販路を擴張せん爲め有らゆる手段方法を講じ得意を誘導するに勉むるが故に豫め右等の情態を詳かにし之れに備へざる時は忽ち輸出品の販路を蠶食せられ遂には自國産品の聲價



を落し輸出の途を塞ぎ以て貿易の衰微を招くの恐あり故に彼等の運動に注意し之が豫防策を施し自國産をして益々販路を擴め輸出の繁盛を圖るべし又輸出國に於ける主産物の豊凶は最も著しき効驗を輸出貿易に及ぼすものなり其理由は本邦に於て年々米麥收穫の多少が市場の盛衰を支配すると均しく海外農産國に在ては小麥の耕作甚だ盛大なれば此穀類の豊凶は直に市場に影響を及ぼすものなり要するに物品賣行の多少は重に労働社會の休戚より胚胎し來るの狀況なれば禾穀登りて地方農民に餘裕を生すれば需用盛んに一般の取引自ら活氣を帶び諸種の物品捌口甚だよく漸次各地方に彌蔓し之に連れて輸出貿易の増加を促進するを得若しそれ之に反し禾穀實らす農民豊かならざれば各自用度を節し必需品をも之を控へ在來品にて一時を彌縫するが如き情態に趣くが故に各品の需用頓に減少し取引は沈靜するに至る況や生糸茶絹織物の如き贅澤品の需用に於てをや海外

市場の情況に於ても亦本邦と同じく労働社會の休戚によりて金融の必迫運賃の高低等を來すと往々これあるを以て商業家は常に此等の情態を研究せざる可らず之を要するに海外諸國に於ける主産物豊饒の年は自然輸出貿易の盛昌を致し之に反せば衰運に傾くものなりと知るべし

第三〇 既に説明したるが如く海外に於ける諸般取引の盛衰は重に労働社會の貧富に關係すと雖も國と國との取引にては之が盛衰の原因たるべきもの猶別に存するあり即ち貿易手續の難易是なり何となれば國際貿易に在ては内國取引の如く其方法簡易ならずして自然的の障害あり即ち關稅手續の如きものにして之が爲に取引を阻喪せしむると少からず此事たる各國言語風俗習慣政事等を異にせるより生じたる差別にして避く可らざるの事態なり之を以て平素此等の事情を審かにし自然的の障害を除去し彼此の事情をして疏通せしめ其有様



をして恰も内地取引の如く爲すを得て交通圓滑なるを得ば輸出の盛大を致すや必せり而して現今に於て専ら此方針を採り通商貿易を奨励し手續を簡易にし物品出入の障害を撤去し自由の交通を開かしめ居るは英國に若くなし則ち英國にては各所の港灣を開放して貿易交通の用に供し以て自國の富を増加するに最も力を盡せり故に英國に於ける輸出の高は年々増加し殆ど本邦の廿一倍にあり然り而して之が原因たる重に手續の簡易なるに歸すべきなれど尙其他自然的の障害を除去し内地を開放したるの一事は則ち其原因たるや疑なし由是觀之輸出貿易手續の簡易が其貿易上に及ぼす効驗の如何なるを了解明知する事を得べし

但し次に記載する表は産出高統計と同しく物品を三種類に分ち海外輸出の高及び内國消費の概算高を掲げたるも固より推測量に過ぎざれば前掲表と對照して之を判定すべし

礦物屬商品輸出高及内國消費高概算表

品名	外國輸出高		内國ニテ消費シ得ヘキ高(廿八年度)	廿八年度輸出高并消費シ得ヘキ高合計
	五ヶ年平均高	二十八年年度		
銅類	一、五三〇、六六斤	二、四三〇、〇八斤	七、六一、五二斤	三、〇三二、三二斤
生銅	一、四七四、三三斤	六、五八、四六斤		
丁銅	七、一七、五八斤	八、四三、二〇四斤	七、六一、五二斤	
諸熟銅	六、三三、三三斤	九、一七、二六〇斤		
銅線	一、二五、四八斤	一、四三、三〇斤		
硫黃	二、五、六四、三三斤	三、四、四三、九三斤	前年ヨリノ繰越高ヲ以テ輸出ト消費トニ充ツ	
安質母尼	二、五、六一、一五斤	一、五、四、〇六斤	一、三、四、六九斤	二、八、〇五、七五斤
硫精製	二、五、六一、一五斤	三、九、四、七〇斤	一、三、四、六九斤	
滿炭	一、五、七、四、九三斤	九、四、六、六六斤	一、三、四、六九斤	
石炭	一、三、九、二、〇六噸	三、七、四、八、一四三斤	一、〇、五、二、九四斤	六、五、三〇、〇六斤
陶磁器	一、四、五、〇八圓	一、八、四、八、二五噸	二、九、九、〇、七六噸	四、八、三、六、〇噸
青銅器銅器	二、四、二、四圓	一、九、五、〇、六〇圓	未詳	未詳

各種商品の生産高増減の理由



銀	未詳	未詳	二、三六、六〇圓	二、三六、六〇圓
金	未詳	未詳	四、六三、〇四圓	五、一〇、三三圓

一二六

植物界商品輸出高及消費高

品名	外國輸出高		内國ニテ消費シ得ベキ高(廿八年度)	廿八年度輸出高并消費シ得ベキ高合計
	五ヶ年平均高	廿八年度		
米類	五三、三四〇石	七五、一二三石	三九、〇六、七七石	四、〇六、七〇石
茶類	六、〇七、七三貫	六、〇一、二六貫	二、四八、一八貫	八、七〇、四四貫
綠茶	五、〇六、五二貫	四、九一、〇三貫		
紅茶	九、二七八貫	一三、三四貫		
玉茶	一〇五、七〇〇貫	八一、六六貫	二、四八、一八貫	
番茶	一四、九三九貫	一四、五六貫		
粉茶	七五、六七貫	一〇、〇六、四七貫		
其他茶類	五、五八貫	一五、二七貫		
烟草類	一三、四九圓	三九、七三圓	七、三六、六六圓	七、七六、二四圓
葉烟草	二五、三三圓	三六、六三圓		

品名	外國輸出高		内國ニテ消費シ得ベキ高(廿八年度)	廿八年度輸出高并消費シ得ベキ高合計
	五ヶ年平均高	廿八年度		
紙卷烟草	二四、六〇圓	一五、七〇圓	七、三四、六六圓	三、三九、五三貫
刻烟草類	三、七八圓	四、三〇圓	三、二四、六一貫	三、〇八、七三貫
其他諸製造烟草	三、七九圓	四、七三圓	三〇、五八、五〇貫	三、九〇、二八石
綿織花糸	五、九五貫	五五、三三貫	三、九五〇、五〇石	一、四〇、九六石
清酒	未詳	一九、七七石	三、九五〇、五〇石	三、三〇、七六石
醬油	未詳	六、三四石	一、四三、三三石	
菜種油	四、〇〇石	二、〇三石	二九、〇三石	
寒天	一九、九二貫	一七九、〇三貫	未詳	
昆布	六、四七、八五三貫	七、一七、八〇貫	未詳	
葉昆布	五、〇六、〇七貫	六、二四、三〇貫	前年ヨリノ繰越高ヲ以テ輸出ト消費トニ充ツ	
刻昆布	九八、七五貫	九七、五〇貫	二、〇三、〇五貫	三、一九、二八圓
漆器	五五、八二七圓	一、〇八、三三圓	九、四八、五三圓	九、九四、二八圓
紙類	二九、九四圓	四、七二、八二圓	八三、六三圓	五、五〇、四四圓
摺附木	二、五三、六三圓	四、六二、八二圓	八三、六三圓	五、五〇、四四圓
木綿織物	三六、八九圓	一、三三、九三圓	三三、四七、八〇圓	三、〇八、三三圓

動物界商品輸出高及消費高  
各種商品の生産高増減の理由

一二七



品名	外國輸出		内國ニテ消費シ得べき高(廿八年度)	合計
	四、五ヶ年平均	廿八年度		
錫	一、四六、七三貫	一、〇四、一九三貫	五九、八二八貫	一、六〇、〇三貫
干鮑	一九三、九三貫	一六、七四貫	前年ヨリノ繰越高チ以テ輸出ト消費トニ充	
海參	一元、八〇三貫	一三、九二貫		
干鰹	三三、八六貫	二四、六五貫		一、四八、八〇貫
空鱈	四、二六貫	四、五六貫		八九、八〇貫
生絲類	一〇、六二石	六、七七石		二、五、一七石
真綿	一四三、三三貫	一、五四、六〇貫		二、六四、五三貫
生糸	七、二〇貫	九七六貫		
慰斗糸	七九、二九貫	九三、六〇七貫		
屑糸	二七、八三貫	二五、四四貫		
其他玉絲繭類	二七、〇〇貫	三三、〇六貫		
屑真綿	一四、四八貫	一、〇三貫		
魚油	一、三三、九七貫	八、一四三貫		
		一、八六、二七〇貫	前年ヨリノ繰越高チ以テ輸出ト消費トニ充ツ	

各種商品製造法

第七章 各種商品製造法

凡そ人類の使用に供する物品は皆な多少の人力を籍らざる可らず而して尙ほ特種の使用に應ずる爲め更に粗生品に幾層の人力を要すべき物品と又格別に人工を加ふるの必要な物品との二大種類あり而して特種の需用に基き勞力と資本と技術との補助を待て然る後人類の嗜好を満足すべき部類に屬するもの之を製造品と云ふ例へば棉花を紡績して糸と爲し糸を織りて衣服の元料たる布帛を製造すると則ち是なり之を以て吾人の如く平常商業取引に従事し日々購買轉賣する物品の内粗生産物の形態を變じ若くは其性質を變じたる製造物品等に就ては豫め其製法沿革順序等を講究し置く事必要なり然らざれば取扱物品の價格高低を判断し能はざるのみならず顧客の注文に應じて臨機應變の所置を爲すこと能はざるなりされば此事たる商人



たるもの、平常心得べき緊要事項と謂ふべし今の社會は活物にして一定不易の時なし一舉手一投足の間も變轉推移極まりなく其狀恰も海潮の干満と均しく一進一退千變萬化瞬時も停止するものならず然り而して吾人商業家は此等變動限りなき活社會を相對にするものなれば世の風潮を察し流行を視て機微の間に其趨勢を看破するの明なかる可らず而して之に應ずるの明敏を貯へんには工業上の智識なかる可らず工業上の智識は製造品の製作方法及び其順序等を指導するものなればなり

社會の事物は粗より精に入り單純より複雑に赴くは既に歴史の證明する所隨て人類の慾望も亦自ら此範圍を脱する能はず例へば昔時に在ては一簞の食一葛の衣以て能く人慾を滿さしめたるも社會萬般の事業の改良進歩するに伴へ漸次人々の慾望を高め食に膏粱美味を要し衣に毛布の輕快精緻を貴び住居は勿論器具機械の微と雖

も精巧華麗を眩ふの風潮は今日文明社會全般に行はるゝの勢なり故に此潮向に従ふの貨物は益々新規を競ひ在來の製造品にては用務を便せず新たに勢力を加へ尙且意匠を施さゞれば販路の擴張を爲し難く之を以て漸次從來の製造法に科學の原理を應用し目今頗る其面目を刷新せり如斯にして物品の製造方法に自ら順序の複雑と綿密とを惹起したり

### 第一節 手工製造法及用器製造法

貨物の製造方法には社會嗜好力の變遷に連れ發達上二種の區別あるを見る即ち手工製造と用器製造是なり手工製造は社會の人智猶ほ未だ幼稚の時代に於て多く行はれ用器製造は人智發達の現時に行はるゝものなり人智幼稚なれば欲望單純にして技藝亦發達せず總ての製造品は概ね必要上より僅に粗生品を變形製作したる迄に留まり意匠もなく模様もなく極めて粗蠢なれば則ち最も早き時代より行はれ



たり用器製造は之に反し智識稍々進歩し學藝技術の道大に開け人民の嗜好高度に進み從來の手工製造にては以て欲望を満足せしむると能はず且つ世の需用愈々上昇し之に應せんには新たなる方法によらざる可らざるが如き事情を惹起し於是學理應用の結果製造器械を發明し益々緻巧を加へ手工にて足らざりし所を補充填塞し遂に今日の如き極めて精良なる器械に依頼して雷に華美精細の製造品を作出し得るのみならず一時に多量の製作品を造成せるに到達したるものなれば此方法の發達は頗る晩き時代に在り之れを要するに製造上右の如き變遷を見しは社會の趨勢之れを促し科學の力之れを助たるものと謂はざる可らず其の例證は吾人の度々目撃する所にして彼の野蠻未開の境隅に在りて蠢々として生息する亞非利加土人若くは亞米利加黑人の愛玩珍重する製造品に鑑みれば思央ばに過ぐるものあらん然るに現今文明人の嗜好する器物は何れも皆壯大優美ならざれば緻

巧精妙實に鬼神をして驚かしむる程の器物にして彼の時辰儀の如きは野蠻人は見て以て怪物と爲すも文明人は之を普通と爲し一層進て其改造方法に心思を凝らし尙此上にも利便を圖らんと欲す其進歩の速かにして那邊を以て程度とするか測り知る可らざるなり

如斯物品製造の方法は社會人智の發達と同時に手工製造より用器製造に移り用器製造は益々其使用器械の改良を誘起し製造の方法は日に日に盛大を致す有様となれり而して今日社會一般の風潮は用器製造に重を置くの傾にして貨物の種類を増加し價格を低廉にし用途を擴め鑑定に複雑を來す等製造法に伴ふの事項愈々多種多様となれり故に現今にては社會の嗜好よりして製造法の改良を誘起したるか若くは製造法の發達よりして社會の嗜好を進めたるか劃然其間に畛域を設くると能ざるに至れり而して右の如き風潮中に在る本邦人は古來より指頭の器用なるを以て他邦に秀てたる故に製造物品中巧妙



なる意匠を凝らし盈々精緻を極め實用的の外各種の製造品をして奢侈的に使用し得るの聲價を海外に轟かしたり然れども是れ皆手工製造法に屬する方法によりたるものにして用器製造時代のものにあらず本邦にて手工製造を捨て用器製造に遷りたるは至て近來の事に係り工場に於て大器械を運轉し實用的製造品を多量に製造するものは其數甚だ稀にして製造所の多き部分は今尙は手工製造にて營業しつゝあり現今本邦にて行はるゝ用器製造法に二種あり固有用器製造法及び洋式用器製造法是なり

固有用器製造法とは古來より本邦の工業者間に行れたる方法にして其規模至て狭少なり蓋し本邦の習俗たる商工農の三業は微賤の事業として社會に蔑視せられ従て學術技藝を有するの輩は此等の事業に従事することを嫌忌し獨り下層無智の人民に委して顧みず甚だしきは多年意匠を凝らして新規の製造方法を工夫するものある時は同業者

に嫉妬せらるゝのみならず上層に在る爲政者は之を以て社會の安寧秩序を攪亂するものと見做し刑罰忽ち下りて其工夫者を罪するか如き無殘の有様なりしより之が爲に諸種の工業製造上改良進歩の路なく手工製造を以て僅かに國內の需用を充すに過ぎず故に用器製造改良の如きは夢想だも及ばざる事にてありき要するに工業製造の方法は邦制上の牽束と賤業なりとの感念より或る二三の製造方法を除き他は概ね著大なる進歩發達なかりき然るに維新後歐洲文明の風を輸入し諸制度を改革し士農工商等の階級を打破し四民平等の制を布き同時に業務の自由を許したれば製造工業にも亦一新時期を與へ洋式製造方法を採用し數多の製造品を社會に給するに至れりされば今日の製造方法は固有と洋式と相半し殆んど伯仲の間に在りと謂つへし而して固有用器製造法により今尙は盛に工業に適用し國産製造品の重なるものは生絲是なり洋式用器製造法か本邦に輸入し始めたるは



安政開國後の事にして由來未だ歲月久しからず然れども其内國各所に傳播せしことは頗る迅速にして當時大製造所の名あるものは皆な洋式を採用せざるなし殊に此方法に依りて多數の製造品を出す工業は紡績業及び麥酒製造業等其重なるものなり

以上製造方法の由來に就き略ぼ其大要を論述したるが故に今各種の製造品に關し手工及び用器製造法の二種に大別し且つ固有と洋式との區分を表記し品名の二三に應用して參考に供せん

陶磁器

作形

手工製造法

手捏

全

用機製造法

轆轤木形石膏形等

燐燒窯

固有式

上り窯丸窯等

全

洋式

輪形窯折衷窯等

織物

手織

バツタン機

固有式

器械織

ジャンガード機

洋式

紙

手漉

石臼にて原料を調合するは人力に由る固有式

器械漉

紙漉器械にて總ての働を爲す洋式

紡績糸

手紡法

紡車、座繰、寄掛等總て人手にて取扱へり固有式

器械紡法

紡績器械にて梳綿伸長精紡等を爲せり洋式

右の外本邦にて現今製造しつゝある工業品には瓦、繪具、砂糖、鞣皮、玻璃の存するあり而して其製造法は晚近我國化學の進歩と海外より傳はりたる器械の應用とにより長足の發達を爲したるは國家富強の基にして實に賀すべきの事實なりされば今後學理と實驗とを應用し益々器械使用の範圍を擴め單に内國の需用に應ずるのみならず益々製造高を増加し進んで海外に輸出するに至る様努めざる可らず

### 第八章 各種商品の鑑定法

商品の鑑定法は當業者の最も苦心する所のものにして又最も緊要

各種商品の鑑定法

各種商品の鑑定法



なるものなり社會の漸次開明に趣くに隨ひ平素取扱ふべき商品の増加するとは前篇に於て既に説明したるが如く鑑定法に於ても亦其品種に隨ひ各々其方法を異にせざる可らず蓋し商業の發達するに當てや物質的進歩益々著大となり従つて理化學應用の範圍愈々擴張し社會一般の嗜好愛玩する事物自ら新奇となり商業家は互に舊來の面白を刷新して各自世潮の向ふ所に傾注し工業家は新製品を案出し農業家は競ふて新種を耕作し以て市場に聲價を博せんことを勉め鑛業家は採掘器械を改良増補して以て其産額を多量ならしめんとに盡力する等何れも皆な時好に投するの神情を鼓舞して各自業務に専心留意するが故に其間自然不正の姦徒跋扈し新趣向無類の商品など、呼稱して不義の利を貪らんと企つるもの漸次増加し來り有害なる偽物を製作し商人を瞞化し世人を欺くもの輩出するは到底免る可らざるの勢なり之が爲め動もすれば真正なる製造工業家若くは農業家は遂に

壓倒せらるゝに至るべし此時に當り真正の商業家たるものは需用者と供給者との間に介立し彼此の便利を計ると同時に自己の利潤を圖らんには日常取扱ふ商品の眞膺良否を篤と識別し需用者に無益の損耗を興へず供給者に不義の利を貪らしめざるこそ真正なる商業家の本務と謂はざる可らず若しそれ之に反し俗に所謂安かろう悪かろうの仕義を以て買賣取引に従事し漫然之を顧みざる時は管に不正者をして毒を社會に流さしむるのみならず遂に自家の頭上に影響を及ぼし家名を維持し能はざるは勿論無識の結果甚だしきは刑辟に觸るゝに至ることあり思はざる可らず商業家に商品鑑定法の至緊至要なるとは今更喋々を要せずと雖も實業家にして身自ら之を勉めず他人をして之に代らしめ敢て進で之を研究推察するもの極めて尠なきを憂ひ敢て一言茲に及びたるなり

鑑定法を大別して二とす略式鑑定法及び正式鑑定法是なり以下順



次之を説明すべし

略式鑑定法

第一節 略式鑑定法

略式鑑定法とは正式鑑定法に比し割合に多くの學理應用を待たざる方法なれば極めて便法なり然れども全く學理を應用せざるにあらざる猶此方法に於ても學理應用の範圍を出てざるなりされど此法たる多年營業に従事する時は經驗上自然に習得せらるゝ識別方法なれば學理鑑定法に對してかくは名けたるなり而して此鑑定法たる頗る廣く世間に行はるゝものにして其方法の細別は左の六種とす

- 一、肉眼鑑定法
  - 二、嗅味鑑定法
  - 三、音響鑑定法
  - 四、觸感鑑定法
  - 五、銘柄鑑定法
  - 六、試用鑑定法
- 第一 肉<sup>〇</sup>眼<sup>〇</sup>鑑<sup>〇</sup>定<sup>〇</sup>法<sup>〇</sup> とは各種商品の外面に顯はれ居る形狀、色合、光澤等を視察し其品質の良否、堅固、柔軟、適、不適を判別する方法なれば最も普通に行はるゝものなり夫れ觀察は試験を喚起するの前置にして試

驗は觀察を確定するの殿騎なり故に商業家は必ず先づ適正なる觀察を遂げ以て其識別を定むるものなれば一切の鑑定法は是より歩を起さざるはなし然るに此方法たる容易の業にあらず必ずや多年の經驗を積み重ね然る後ち意中に於て一定の原則に歸納したる上之を規矩とし準繩となし彼此の差別を判定する方法なるが故に鑑定法中最も至難なるものと云ふべし然りと雖も一旦此法に熟する時は極めて輕便なるものにして器械を要せず時日を費さず一目にして商品の眞贋良否を判定し得るものなれば人皆此法による而して其不便とする所を擧ぐれば此方法に由る時は或一定の有形上の標準なきにより鑑定者各自の視る所を異にし其軌を一にせざる爲め顯著なる判斷を下し難き場合尠からず要するに一利一害は何物にも免るべからざれば人の自得し居たる觀察力に基き商品の鑑定を行ふに過ぎず從て今此方法の例證を掲記すること能はざるなり

略式鑑定法



第二 嗅味鑑定法 是概ね飲食料又は香味料を鑑定する方法にして至て輕便なる方法なり最も以上二物に拘らず金屬類若くは製造品等の混合物を檢定するにも亦往々此法に依頼することあり例へば菜種の油を嘗めて其香氣に徴し綿實混合の多少を鑑別し又は鎔鑛用骸炭を嗅ぎて硫黄分の多少を察し品質の良否を知るが如きは皆な此法にて鑑定し得べし而して茶、烟草、砂糖、米、麥等は何れも此鑑定法に由るなり

第三 音響鑑定法 是多く固形体商品の堅硬、柔軟、龜裂の有無若くは破損の箇所等を發見して其良否を判定する方法なり故に金屬陶磁器等の鑑定に廣く行はる例へば陶磁器の鑑定に際し其音響清亮ならずして濁り又は音響の微弱にして耳底に達せざる如き場合には必ず其商品に就て異状のあることを暗示するものなり蓋し金屬石器屬等に有する微瑕は肉眼もて發見し得ざる場合屢々これあり此時に當り音響鑑定法を試むれば直ちに真相を吾人に明示するものなり

第四 觸感鑑定法 是吾人の指頭又は手掌にて各種の商品に觸れ其感覺力の如何により良否を判別する方法なり故に米穀乾燥の度合、羊毛の良否、鐵物の精粗等を檢定するは多く此方法に由る例へば米穀にして吾人の手に觸れ濕氣を帯ひ且つ暗濁色を呈する時は乾度の不充分なるを示し又織物を手頭にて擦り溫和にして且つ輕快に感ずるものは其絹織なるを知り感觸粗雜にして不快なるものは概ね絹織にあらざるを表示するが如し

第五 銘柄鑑定法 是各種商品の外部に貼附若くは印象しある商標(Trade Mark)又は符合(Sign)の如何により檢定識別する方法なり此方法は各種商品の品質良否を判定するよりは寧ろ商品の眞贋鑑定に使用するものと謂ふべし此方法たる甚だ容易に熟練し能ふものなりと雖も商業取引に充分の信用實行せらるゝ曉にあらざれば其効果皆無と謂ふも不可なきが如し原來商標は貨物の良否を顯はし産地の東西を



判知するの目標なり故に若し此商標にして信を置くに足らずんば貨物毎に包皮を發きて其品質を檢定するを要す實に商標の信偽は商賣貿易の消長に關するものなり然るに本邦にては維新前後國內の紛擾に連れ商業の習慣大に亂れ從て商標の濫用甚だしく信義を重せざる委あれば誠に慨すべきなり最も政府に於て先年商標登録の制を設け商人の權利を保護するが故に登録商標の貼附しある物品は此鑑定法もて満足なる判定を爲し得べきもこれ其一部分にして全体を律すべからず吾人は各自信用を重んじ經濟上又は取引發達上多く此鑑定に由て商品の良否を判定することの實際に行はれん事を希望して止まざるなり

第六 試用鑑定法<sup>〇</sup> は商品を實際に試用したる上にて其良否と適不適とを鑑別し以て其結果を表はす方法なり故に實務的鑑定法中にては最も確實の方法と云はざる可らず然れども固と此方法によるは商

品使用者と賣込者との間にて特に定めたる契約などに基き將來を慮かり之れを實施するもの多きに居るか故に小取引に於ては事實行はる可らざる方法なり最も或る種類の商品に施して其効果甚だ顯著なるもの往々これあり彼の燃料發火物等は此適例なり而して將來の取引を豫定して使用上の成績を示すの方法としては蓋し最も便利なる方法なるべし例へば石炭を或る工場に賣込まん爲め工場に依頼して使用鑑定を爲すが如きは則ち此方法に由るなり

## 第二節 正式鑑定法

此方法は一に學理の應用に基き商品の品質に適ひ且つ又其組成分に適合するの鑑定法にして確固不拔の方法なり此方法の便宜とする所は實務的鑑定とは大に異にして彼の如く多年の經驗を要せず此方法の基礎は單に理論を應用して組立たるものなれば商業家たるもの其取扱だに理解せは實際に使用して甚だ便利なる方法と謂つべし



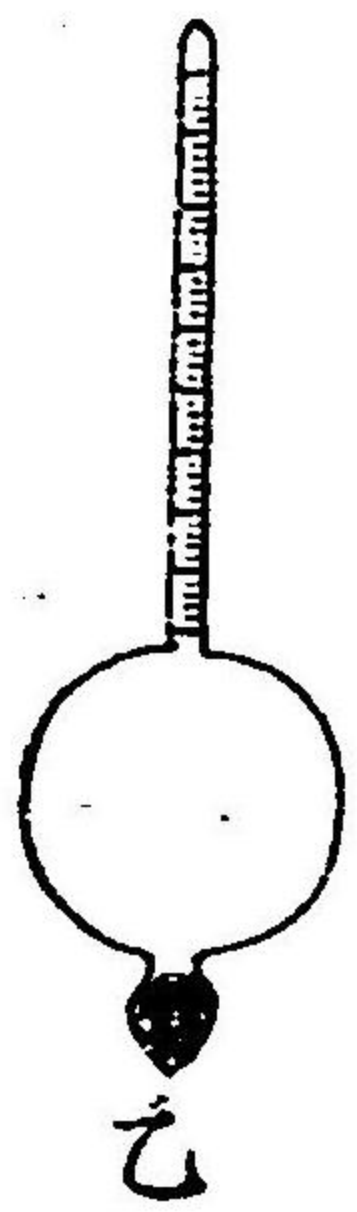
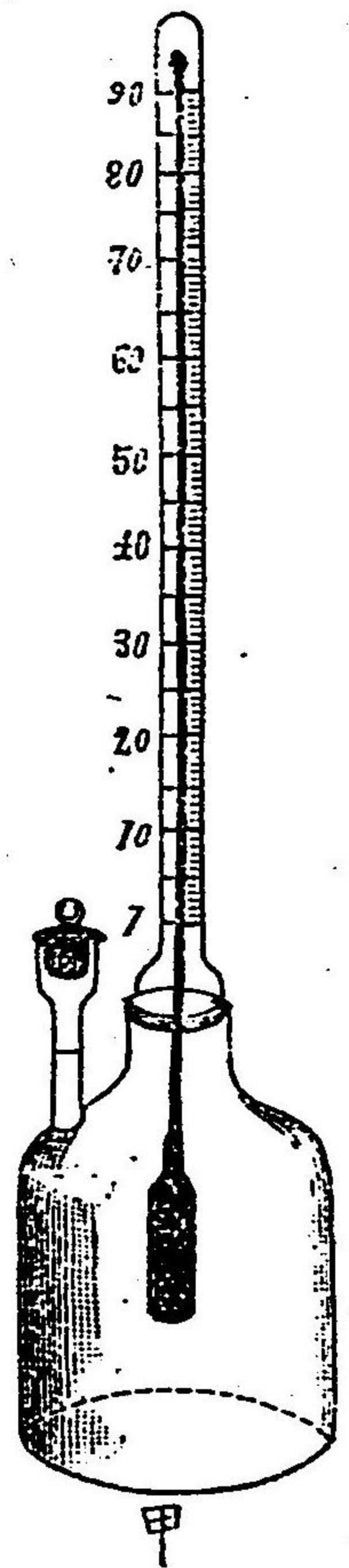
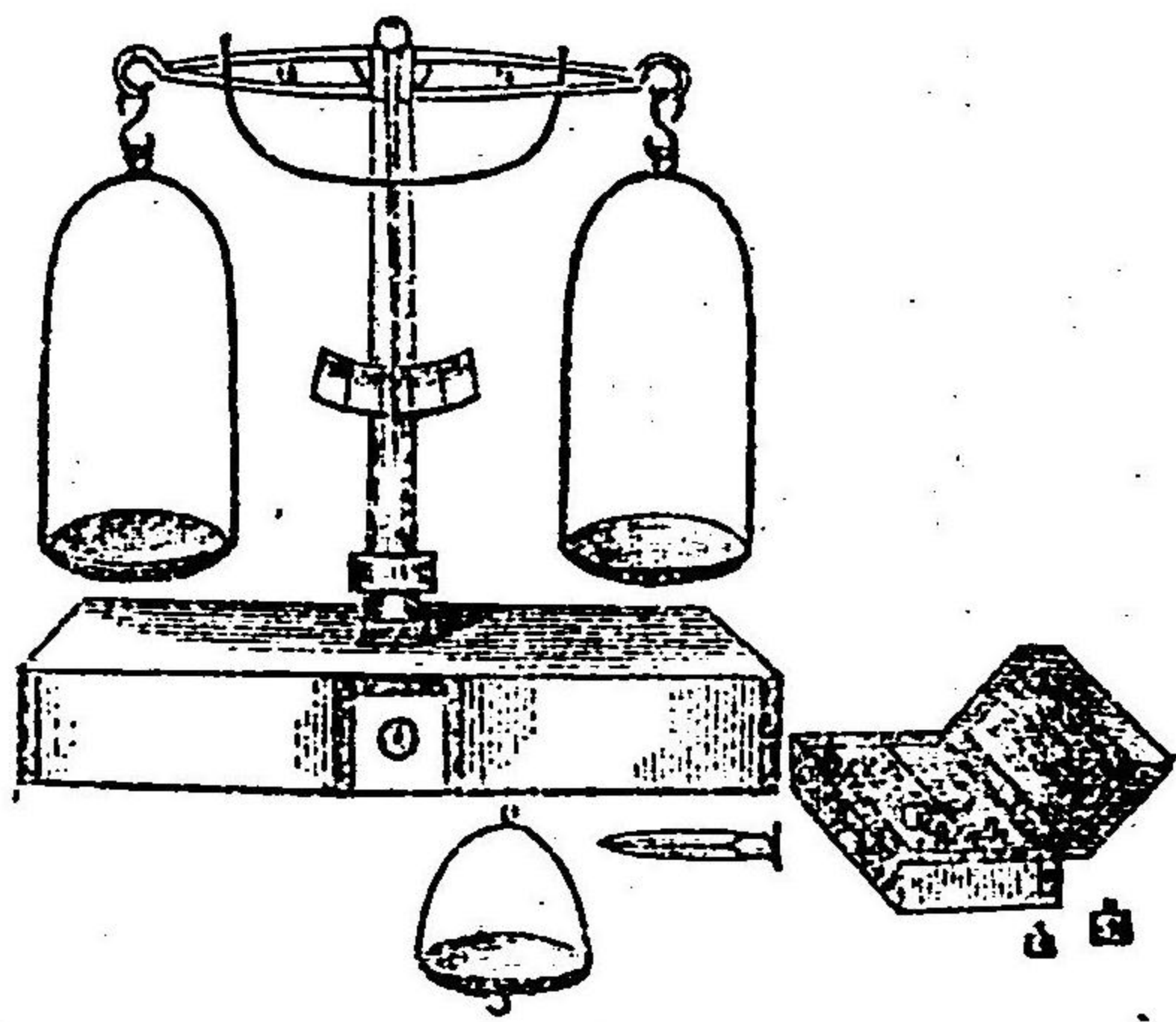
此方法を細別して左の五種とす

一、秤量鑑定法      二、特設器械鑑定法      三、化學的鑑定法

四、顯微鏡鑑定法      五、分拆鑑定法

第一 秤量鑑定法は商業家が取扱ふべき各種商品の物理的性質を利用して鑑定する方法なれば一に物理的鑑定法と稱すべし抑も此鑑定方法を行はんには豫め各種商品の重量若くは比重を規定し置き之を標準として買賣商品の品質良否を檢定するものなり蓋し市場にて多く取扱ふべき商品は純粹のもの少なし故に規定の重量若くは比重と適合するものは極めて稀なれば唯だ其數量に接近したるものを撰定するに在り而して平常此方法に由り鑑定を行はんには精量なる衡器と比重計とを設備し置かざる可らず今此兩種の器具と比重計算法とを示し次に實際に就き其鑑定法を説明すべし

上圖は平素店頭に備ひ置くべき權衡と分銅にして秤量百グラム感量一ミリグラム分銅は百グラムより三ミリグラム迄とす



正式鑑定法

上圖甲乙は權衡と同じく常に使用に供し得る比重瓶の二種を示したるなり最も坊間に需げる比重計(乙)は簡單なれば之を使用するも妨げず



凡そ比重は各物体其時と所とを論せず常に毫末の差異なきものなれば商品の純雜を判定するに尤も欠く可らざるものなり而して比重とは同積のものを以て實質の多少を比較するものにして其比較單位は水なり即ち水を一として之れに他物を較ぶるなり例へば銅の比重は八、九五なりと云へば一立方センチメートルの水の重量は一グラムなれば同容積の銅は八グラム九五ありと云ふ義なり此比重鑑定法は金銀製指環鎖其他凡ての商品に應ずるを得べし唯空虚ある物體は其比重を定め難きことあり商品の比重を計算するに當り固體と液體とにより其方法を異にせり先づ固體より之を解かん

金銀銅鐵等の如き固體の比重を測らんと欲せば其商品を空中にて秤りA 勿なりとし次に之を水中にて秤りB 勿なりとし同時に寒暖計を以て水の温度を測り然る後ち前後の重さの差を以てA 勿を割り其商に下に記載せる其温度の水の比重を乗じて之を得るなり代數式に

て表はさば左の如し

$$A + (A - B) \frac{t}{t_0} = \rho \times \rho_0 = \text{物體の比重}$$

斯くして得たる金屬非金屬の比重左の如し但し製法により多少の差あるを免れず唯だ其一斑を示すものと知るべし

鍍展したる白金	二二、〇六九	鍍展したる純金	一九、三六二
鑄造したる白金	二〇、三三七	鑄造したる純金	一九、二五八
銀	一〇、四七四	鑄造銅	八、八七八
鉛	一一、三五二	生銅	八、七八八
金貨(金九 銅一)	一七、四	錫	七、二九一
鋼鐵	七、八一六	洋銀	八、四三二
軟鐵	七、七八八	眞鍮	八、三八三
鑄鐵	七、二〇七	白銅	八、九
亞鉛	六、八六一	蒼鉛	九、八二二

正式鑑定法



アンチモニー	六、一七二	木炭	一六
フリント硝子	三、〇乃至三、五	磁器	二、〇乃至二、五
クラウン硝子	二、五乃至二、七	象牙	一、九、一七
水晶	二、六五三	硫黄(結晶)	二、〇三三
白臘	〇、九九三	石臘(パラフィン)	〇、八七三
銀貨(銀八)	一〇、二	金剛石	三、五三一

石油 礦油 硫酸の如き液体の比重を檢定するには第二圖の如き比重瓶にて之を算定す而して其計算法は左式の如し例へば今酒精の比重を檢したるに左の如しとせば精酒の比重は〇、七九九なり  $\Delta + \text{H}_2\text{O} = 8$  水の温度の比  $\text{H}_2\text{O} \times 8 = \text{酒精の比重}$

- 比重瓶の重量 四五、三六二グラム
- A 酒精を充たして測りたる重さ 八五、二六一グラム
- B 酒精を去り水を入れて測りたる重さ 九五、一七四グラム

水の温度

一六度

$$(85,261 - 45,362) + (95,174 - 45,362) = 8 \quad 8 \times 998999 = 7990 \dots \dots$$

右の試験により得たる各種の比重左の如し

石油	〇、八四	橄欖油	〇、九一五	水	銀	一三、五九五
礦油	〇、七六	テレベン	〇、八七	エーテル		〇、七一
硫酸	一、八五	鹽酸	一、二七	硝酸		一、五六
グリセリン	一、二七	ニコ、ホルム	一、五三			
酒精	〇、七九九					

平素店頭に於て此鑑定法を施すに當り常に使用すべき照合必要計數なる水の比重表を左に掲ぐべし

水の比重の表

水の温度	比	重	水の温度	比	重
〇度	〇、九九九八七三	一三度	〇、九九九四二四		

正式鑑定法



一度	.....	一四度	〇、九九九二九四
二度	〇、九九九六六九	一五度	〇、九九九一五二
三度	.....	一六度	〇、九九八九九九
四度	一、〇〇〇〇〇〇	一七度	〇、九九八八三四
五度	.....	一八度	〇、九九八六五八
六度	〇、九九九九七〇	一九度	〇、九九八四七〇
七度	.....	二〇度	〇、九九八二七二
八度	〇、九九九八八一	二一度	〇、九九八〇六四
九度	.....	二二度	〇、九九七八四五
一〇度	〇、九九九七三七	二三度	〇、九九七六一六
一一度	〇、九九九六四六	二四度	〇、九九七三七七
一二度	〇、九九九五四一	二五度	〇、九九七一二八

第二圖乙の比重計にて液体の商品を鑑定する時は其比重計の指す度

數に應し箱の内部に貼附しある比重表に對照せば直ちに其比重を知  
ることを得るなり

第二 特置器械鑑定法 とは或る特定の器械を使用して其特定の商  
品に欠く可らざる特點と性質の良否とを檢定する方法なり之を例せ  
ば石炭の發熱力を試験するにトムソンの熱量器を用ゐ又石油の發  
火點を檢定するに開放試験器及び閉塞試験器を用ゆるが如し而して  
此等の試験器たる何れも學理を基礎として器械を構造し多年の實驗  
を積で其確實なることを証明したるものなれば一度此器械に由て品  
質を檢定し好成績を奏したる商品は必ず市場に於て聲價を保つのみ  
ならず實際に使用して謬りなきものなり吾人は今トムソンの熱量  
器に就き簡單に其原理を説明して確實なることを示すべし

抑も此試験器構造の基く所は彼の多年間理學者の研究に由て定論  
となり居る蒸氣の潜熱は華氏の九百六十七度なる事(一)純粹なる酸素



中にて燃さるゝ石炭は普通の空氣中にて充分に燃さるゝ石炭と同量の熱度を發散する事(二)との二理由に歸因せるなり既に蒸氣の潜熱は華氏の九百六十七度なりとせば今茲に水の一定量ありとせんに(假へば一石の水之を悉く氣化せしめんと欲せば華氏の沸騰點二百十二度に達したる後尙ほ九百六十七度の熱を加へざる可らず故に今假定したる一定量の水を沸騰點以上にて氣化し悉し得る熱度は恰も水の九百六十七倍(假へば九百六十七石の水)のものを一度熱する爲めに要する熱に同じ然らば水量を十倍し其十石を悉く氣化するに必要なる熱は九百六十七石の水を十度熱するも要用なる熱度と均一なることを發見し得べし是に由て之を觀れば此場合に於ては華氏寒暖計の指示する熱の度數と水の分量とは常に同一なるを推論し得るなり

今試みに一グラムの石炭を取り九百六十七グラムある水中にて燃焼する時は其水必ず温度を増すべし而して此温度は則ち石炭一グラ

ムを以て華氏沸騰點より水の幾グラムを氣化し得るやの疑問に答ふる度數なり然らば之より推斷して直ちに石炭の有する蒸發力の多少を知悉し得べし而して實際の試験に當り採用する石炭の重量は一グラムより二グラムを用ゆる方便なり隨て水量も之に應し九百六十七の倍數一千九百卅四グラムを用ゆる而して此トムソン氏試験器は右の分量に應し構造されたるものなり氏は曩に此分量を基とし且つ種種の割合にて試験を重ね良成績を得たりと云ふ

現今熱力の單位に就ては世人一般にカロリー(Calorie)を採用せり故に此試験器にて増熱したる温度をカロリーに換算し蒸發熱度を知らんと欲せば五三七の數を乗すべし是れ華氏と攝氏との比例數なり例へば試験の結果攝氏にて上昇温度七度三あらば其カロリー量七〇五九にして若し八度ならば七三六カロリーにして前者より後者の良品なることを證明するものなり而して華氏にて檢温したる度數に



は勿論九六七を乗じてカロリーを得べきなり

斯の如く熱力の増大なるは則ち蒸發力の最高度を標記するの證にして石炭の熱度を試験するに就て最も輕便なる器械なり故に現今石炭を多く使用するものは皆な此器械に籍て品位を鑑定すると云ふ

第三 藥品鑑定法 是は化學的鑑定法と稱す重に藥品を使用して商品の品質を鑑定するに由るなり例へば金は硝酸液に冒されざるの特性を有するが故に金面に此液を滴下し變化の有無を熟視して其眞膺を識別し若くは硫酸液を紺色染の毛布面に滴下し其變色の有様を察し紺色の良否と褪色の遲速とを檢定するが如きは是なり

第四 顯微鏡鑑定法 是吾人の肉眼にて視ること能はざる組成成分を顯微鏡の助に籍りて識別し以て貨物の良否を鑑定す而して高度の顯微鏡を以て物體の組織を熟視する時は織物ならば其地合又地金の如きは其結晶を顯示するが故に直ちに品質の如何に判別し得べし且又

物品の混合物を發見するも甚だ便利なり例へば穀物粉類の品種を別ち纖維質の品類を區別する等其最も顯著なるものなりとす

第五 分拆鑑定法 是最後の鑑定法にして最も複雑なる手續と緻密の器械とを要するものなり分拆法を分て二種とす重量分拆及容量分拆是なり重量分拆とは或る物質を分拆して其性分を變し或は單體となし或は複體となし以て之を精密に秤るなり而して容量とは前法に比し極めて簡單なる装置にして先づ或る物質を取り之を溶液と爲し豫め其稀濃の度を了知し得べき溶液を之に注加し而して後化學的作用の定法によりて物質中に含有せる成分の重量を測算して判定する法なりされば此鑑定法たる特別の智識と技術とを具へざる可らざるが故に普通に行ふ可らず然れども學理的鑑定法としては最も完全なるものにして此法を措て精密なるもの他に求む可らず何となれば此法による時は或る物體を其組成成分なる元素にまで分解して其割合



と必要なる組織分とを明示するものなり之を以て新たに發見したる物體若くは學理的の研究を要する場合に廣く應用せらるゝなり

以上各鑑定法に就き概略説明し終りたれば學者略ぼ之を了解したるなるべし而して右種々の鑑定法には何れも皆な適不適長所短所等の特性を有せり即ち甲の鑑定法は甲種商品の鑑定に最も適合せるも乙種商品の鑑定には應用すること能はず又丙の鑑定法は丙種の商品を檢定するに至極便利なりと雖も丁種の商品に應用し能はざる等の場合少なからず更に實際に於ては一層錯雜なるを免れず故に千差萬別の商品に就ては往々彼此兩立し難きことあるは事實上避け難きの故障あれば彼れ是れ應用の巧拙は學者實際に望んで以上各種の方法を折衷參酌し各其便宜に従ふべきなり前章已に記したる買手の巧は商品の鑑定に在りと米國の經濟學者の言は實に此鑑定法たるものゝ商業家に取り至要なることを證するに足らん

## 第九章 各種商品の荷造法

各種商品の荷造法は商品の性質と各地方の習慣とにより皆其方法を異にせり故に同一商品と雖も其方法の區々たるを免れず元來荷造の良否は直接に商品の市價若くは性質に關係するとなしと雖も間接に其影響を蒙ると甚だ大なり今日各商業に従事する實業家の爲す所を見るに多くは此荷造方法に重を措くもの稀なり惟ふに實際之が改良を施さんには餘分の費用を掛けざる可らざるを以て概ね粗略に過ぐるの弊に陥りたるものならん歟焉ぞ知らん荷造方法の不完全なる時は自家の取扱ふ商品が市場に於て聲價を博し得ざるとあるを最も吾人商業家が平素取扱ふ物品は其種類甚だ多し或る商品は一度需用者の手に渡る時は直ちに消費せらるゝものあり或は多少の時日間保存し置くものあり或は長日月の間貯藏保存し得るものあり而して其



直に消費せらるゝものに在ては荷造の方法に關し敢て思慮を運らす程の價値なし然りと雖も運搬途中の手當は直ちに消費すると否とに拘はらず需用者にて極めて便利なる方法を講せざる可らず是れ總ての場合に荷造法の必要ある所以なり殊に永日間保存すべき物品に關しては特別に其方法を講するの要あり故に吾人商業家が取扱ふ多數の物品は其性質と保存期限と運搬方法等を熟察考究し相當の思慮と手數を費すべきは極めて普通の事柄なりと謂ふべし

荷造方法の最も肝要とする所のものは運搬當時に於ける手配の周到綿密なるに在り若夫れ荷造の方法不完全なる時は遠路運搬の際脱漏散逸若くは破損等の憂あるを免れず甚だしきは途中にて荷造の仕換を爲さざれば之を遠所に運び能はざると往々これあり斯の如くなれば其品位に影響を及ぼすと勿論にして延て其時機を失ひ遂に價格の上にも損害を蒙るべきは當然なりとす之を以て吾人は其始より商

品の荷造に充分の注意を加へ再び改装するが如き不体裁を演せざるこそ平素の勤めなりとす更に海外輸出の商品に就て之を論ずる時は尙一層の注意を爲さざる可らず何となれば輸出品にして萬一荷造の粗略なるとあらんか内國取引と異なり船積陸揚運送等の手續を経ると甚だ多ければ其間に於て包裝破壊するか然らざれば罅隙なぞ生じ其商品の露出するか若くは漏洩するが如き場合尠からず爲めに意外の損耗を招くと屢々これあり且又運搬途中に於ては炎熱熾くが如き赤道直下を過ぐることもあり或は寒威甚だしき極地に到ることあり如此非常なる寒熱の差は忽ち商品の性質に異狀を呈し愈々之を使用するに際し無用に歸するが如き非運に遭遇することあり此等は皆な荷造の不完全なるより生ずる通弊にして之を包裝當時に在て充分の注意と手配の周到とを以てせば斯る憂あることなし

以下荷造の方法に就き少しく論ずる所あるべし



第一節 荷造法の要旨

荷造の法は商品の種類と取引先との相違により自ら差異あれば豫め一定し難し然れども其要旨とする所は蓋し左の數條に外ならざるべし

- 第一 商品の性質に基き適宜包装する事
  - 第二 各地取扱地の習慣に應ずる事
  - 第三 破損せざる様堅固に爲す事
  - 第四 重量面積等重大に過ぎざる事
  - 第五 買手の嗜好に投じ運搬に便ならしむる事
  - 第六 防水的材料を以て外部を包装する事
- 第一〇 商品の性質により包装を爲すの必要なるとは今更喋々を要せず既に實業家の熟知する所なるが故に之を陳べず且其委細は第二節荷造方法の部に就て參觀すべし

第二〇 各地の習慣に應ずる事は最も肝要なる一にして若し此點に注意を欠く時は運搬方に差支を生ずるとあり而して其習慣たる區々別にして例へば甲地に於ては重に人肩馬背により運搬するの習へありと雖も乙地にては概ね馬車鐵道貨車に積載して轉送するの例あり此の如く其方法一定せざるを以て荷造の前に豫め取引先各地方の習慣を熟察し之が荷造を爲さざる可らず然るに之を察せず甲地方に送るに當り一人の力能く之を擡ぐるとを得ず若くは容易に其外覆を爲し能はざる如き巨大の荷造を爲すは決して販路を擴むると能はざるは勿論將來其不便に懲りて遂に取引を中止するに至る思はざる可んや殊に習慣上注意を加ふべきは清國向輸出の貿易品なり清國は古來より習慣を貴ぶこと實に豫想外にして若し同國の習慣に反する時は例へ商品の性質優ることあるも之を拒み時に或は改装を爲して内地に輸送することありと云ふ本邦に於ても荷造の方法は古昔の習慣よ



り來たりたるもの尠からず例へば生絲荷造の如き一例にして古來馬背を藉て運送したるに由り一個を九貫目と定めたり即ち當時一駄と云へるは卅六貫目にして四個を以て一駄となしたる其習慣今日尙は行れつゝあるなり

第三〇 破損せざる様堅固に荷造を爲すは途中にての損害を豫防するに在り全体本邦にては荷造を施すに當り費用の掛らざるを專一とせしを以て自然粗漏に流れ此點に思を凝したるもの甚だ稀なり是乃ち今日に於て往々吾人の目撃する荷造の不規律不整備を來したる原因にして從て其間莫大なる損害を蒙りつゝあるなり本邦にて貨物を船積陸揚する等の際は多く仲士業者が鉤を用ゐて之を取扱ふが故に掛繩切れ包装破れ爲めに其内に在る物品の漏洩するとあるは屢々目覩する所なり故に此等の患なからしめんと欲せば米麥菽の如き俵入のものは其包装を二重と爲し縦横に繩を掛け充分に緊縛するを要す

又た外國へ輸出する貨物の如き箱詰ものは豫め本邦商人に於て堅固に荷造し開港場の商館にて再び改装するが如き煩なからしむべし荷造を堅固に爲すに當り其費用を吝みて粗糙に包装するは一文吝みの百損と云ふべし

第四〇 重量面積等をして重大に過ぎざらしめんと欲せば器械の力を籍らざる可らず彼の水壓機は其一法にして荷造の容積を縮少するの用に供するなり而して斯く重量容積等に殊更注意を要する所以のものは運搬に際し徒らに餘分の賃錢を仕拂はざるの趣旨に外ならず是れ貨物の價をして騰貴せざらしむるに在るなり然るに若之を思はずして單に荷造の堅固嚴重なるを欲せば勢ひ貨物の外装に鐵帶を施し又は部厚の木板を用ゐて不用の重量を増加するとあり彼の北海道より來る鰯搾粕其他魚類製造品の荷造は多く圓筒形の包装を爲す故に運搬に當り層々相累なる間に自ら空隙を生じ餘分の運賃を仕拂ひ



爲めに荷主の損耗と爲ると尠からず是其容積に注意を欠くの一例なれば能く注意して此等の損失を招かざるとに考慮を運らすべきなり

第五<sup>〇</sup> 買手の嗜好に投じ運搬に便ならしめん爲め善良なる荷造法を施すことは臨機應變時の宜しきに従ふの外なし故に豫め之を論ずると能はずと雖も此事頃たる極めて緊要なるものなれば茲に之を掲出せり由來此事たる世人の重に忽にしたる所にして吾人の大に怪しみたる所なり是れ蓋し買手の人物を識別するの明に欠くる所あると荷造に要する費用は浪費なりとの感念より知らず識らず今日に至りたるものならん歎然るに此事たる商品販路の擴張を圖らんと欲せば決して瞬時も忽諸に附す可らざるなり

第六<sup>〇</sup> 防水材を以て外部を覆ふとは包装内部の貨物をして不時の損害を蒙らざらしむるに在り蓋し貨物運搬の際は途中にて降雨に出遇ひ若くは船積航行の際暴風怒濤に遭ひ海河水等の浸潤を受くるとあ

るは往々出來するの事變なり故に豫め之が防禦として右の方法を講じ萬一に備ふるは商業家の當に勤むべき事項なり加之防水材を以て貨物を包装する時は例へ運搬の中途に於て濕潤の空氣に觸るゝとあるも微菌を生ずるの憂なく尙ほ且運送に多數の時日を費すとあるも貨物に變質を來すと少なし則ち彼の輸入煙草の如き内部を錫箔にて包装し然る後ち箱入と爲しあるは濕氣を避くるが爲めにして其性質に異變を生ぜざらしむる爲なり

以上は荷造要旨の大略にして未だ詳を盡さずと雖も商業家たるもの右の要領を平素心に留め以て取扱貨物の包装を施す時は不時の損耗を豫防し得るのみならず貨物をして益々市場に聲價を博することを得べし然り而して之に附帶して生ずるは荷造費の多少なり故に實際に望まば必ず其費用の多少に留意し成べく經費若くは勞力を少なくして以上の目的を達するの考案なかる可らず左に參考の爲め先年農







商務省に於て調査したる荷造費及運賃の大略を記載すべし

第二目 荷造費の概算

内國各産地より輸出港に至る運賃及び荷造費  
生絲

- 長野縣より横濱迄 一個(九貫目)に付 一圓四十錢
- 群馬縣より同 同 五十錢
- 福島縣より同 同 一圓三十錢
- 山梨縣より同 同 一圓五十錢

右荷造費五十錢乃至一圓五十錢保險料は元價の百分の〇・二より一前後

茶

- 三重縣より横濱迄 一個(凡十二貫目)に付 卅三錢
- 静岡縣より同 同 十八錢

右荷造費は一個に付卅錢前後

陶磁器

- 佐賀縣より神戸迄 一貫目に付 七錢八厘
- 愛知縣より横濱迄 同 五錢三厘
- 石川縣より同 同 九錢
- 京都より神戸迄 同 四錢

右荷造費一貫に付二錢五厘乃至八錢五厘

地蓆

- 岡山縣より神戸迄 十五貫目(一個)に付 十六錢
- 大分縣より同 一卷(長三尺經一尺三寸)に付 十一錢

右荷造費三錢前後

絹織物

- 廻井縣より横濱迄 十貫目に付 貳圓十錢

荷造法の要旨



群馬縣より同	一貫目に付	參錢五厘
栃木縣より同	同	五錢
京都府より同	同	十八錢
右荷造費一貫に付十五錢前後		
米		
山口縣より神戸迄	百石に付	貳拾圓
三重縣より同	一噸に付	拾圓十五錢
海參鈔錫等の類		
青森縣より横濱迄	(海參等の類)	百斤に付 四十二錢五厘
愛媛縣より同	(錫)	同 十七錢五厘
島根縣より同	(同)	同 卅三錢五厘
鳥取縣より大坂神戸迄	(同)	同 十六錢

右は其概略にして殊に今日の如き物價高貴の時に於ては多少費用

荷造の方法

の嵩むは無論なれば先づ右高より各種物品の荷造費は他の物價に連れ五割増とせば大差なしと知るべし

第二節 荷造の方法

既にして貨物の荷造要旨を會得したる後は今日實際に行はるゝ荷造の方法に就て論究査察するを要す而して各種荷造の方法は皆貨物の性質に基き各其法を異にするは極めて見易きの事柄に屬し吾人の平常目撃する所なり即ち酒類油類の如きは流動体なれば之を樽詰瓶詰と爲し穀類肥料類の如き粒狀粗雜物は俵入叭入と爲すが如き何れも其性質と形態とに由て生ずるものなり

抑も市場にて取扱ふ貨物の形態に種々あり然れども先づ之を大別する時は二種とす固形体及び流動体是なり而して荷造の方法は各其体形に應じて包装せざるはなし今日商賣社會一般に行はれつゝある種類を列記すれば概ね左の如し

荷造の方法



第一　バラ荷積　　　　　　第二　叭入筵包法

第三　俵入法　　　　　　　　第四　箱詰法

第五　袋入及び紙包法　　　　第六　樽入法

第七　壺入法　　　　　　　　第八　布包法

第九　罐詰及び壘詰法　　　　第十　結束及び縮締法

今以上十種の荷造方法を説明すれば

第一　バラ荷積　とは各種の貨物を運搬移轉するに當り格別に包装若くは結束を施さず貨物現在のまゝにて取扱ふ方法なり而して此方法によるものは一時に多量の運送を爲すに際し一々包装するの手續を省きて差支なきものなると且つ運搬途中にて少量の貨物脱漏することあるも取扱者に取りて、非常の損失を醸さざる者ならざる可らず即ち多く粗生雜駁にして個々の價格甚だ低廉なる品種に適用せらるゝ方法なり例へば丸木材、石炭塊、土砂、銑鐵、銅塊及び鑛石類等の運送法

に用ゆ

第二　叭入法　は極めて簡易なる荷造にして粗生品を包装するに最も適當なり各地の農業家は穀菽類を包装するに使用す其材料は概ね稻稈にして貨物の保存上甚だ便利なり九州鹿兒島近傍にては玄米を市場に運送するに當り此方法によるものあり而して最も多く叭入法にて市場に出づる貨物は菜種、大豆、硫黃、炭等是なり叭入法に次て粗生品の包装に使用せらるゝは筵包法なり而して此法に要する筵は多く藁にて製し一旦商品を包装したる上繩にて十文字様に繋ぐるを普通とす又之と能く似寄たる方法にてアンペラ包あり之は砂糖などの荷造に多く見受くる所にして一度使用されたるものを再用し金屬粗製品の包装に使用せられ極めて輕便なる方法なり

第三　俵入法　は叭の如く藁を以て製造したるは多く米俵に使用し麥稈にて造りたるは炭を包むに用ゆ本邦にては各地到處米の耕作盛



なれば随て藁の生産多く農家は耕作の餘暇を以て繩を綯ひ蓆を織り俵等を造るは全般の常態なれば收穫農産物を包装するは全國殆ど同一轍にして俵入荷造の方法は頗る廣く行はる最も其俵装の仕様に至ては各地一ならず甚だ區々たるを免れず而して其最も注意したる方は撰藁を以て製造し且つ其繩も摺繩を掛けたるあり又其粗造なるものに至ては俵目の緊縮全からず往々米麥豆等の粒子脱出するものあり如斯製法一ならざるを以て取引上不尠不便なるが故に之を一定するの議あるは現今の事態なり此俵装にして最も完全なりと稱すべきは先づ乾燥せる藁を用ひて四ツ打若くは五ツ打に仕立て二重俵と爲し而して之を緊縛するには摺繩を二筋とし横繩五つ堅繩を十文字に掛くるを要す以上の如く仕立る時は内部の商品極めて微細のものに係ると雖も運搬取扱の際脱漏するの患なく至て堅固なり此二重俵と爲すとは商品の種類にもよるべければ實際に當り臨機の所置に出

づべし今此包装にて市場に出づる商品を擧ぐれば米穀類肥料類干鰯食鹽棉花等なり

第四 箱入法。は紙製箱と木箱製との二種あり紙製は堅固なる容器と爲す能はされは之にて包装する商品は概ね輕量脆弱なる物品なり故に商品個々の容器と爲し然る後ち木製箱にて外包を爲すを普通とす木製箱を供用するに當り商品の性質輕粗なるものは薄き板にて製造し若し商品の性質重大且つ精密なるものは厚板を以て調製すざる可らず此荷造法は工業製作品若くは機械類の包装に使用すると多く現今最も汎く行はるゝものなり殊に海外輸出の商品は概ね此方法に由る而して此方法たる貨物を充分に包被し蓋板を釘付と爲す時は取扱に便なるのみならず堅固にして少々の衝突壓縮等に出遇ふ事あるも外被を傷けず從て内部の商品に破損を及ぼすと少ければ商業上不時の災害を蒙むるの患なし又若し内部の貨物にして水氣空氣の浸入



を恐るゝものは箱の内側も錫箱を張るか又は外側を鐵葉にて張るか右兩様の方法を施す時は浸潤の害を免るゝとを得且つ玻璃器陶磁器の如き破損し易き商品を箱詰と爲さんと欲せば藁若くは之に類する材料を以て詰物と爲し空隙を埋め彼此衝突せざる様豫め破壊を防ぐの注意を加ふると肝要なり而して尙堅固の上にも堅固に荷造を爲さんには箱の外部を再び鐵を以て束帶するものなり製茶洋酒類ポルト書籍等は皆此方法に由るなり

第五 袋入及び紙包法 商品の性質極めて輕量にして且つ破損壓縮等の患なきものを包装するに使用せらるるなり而して其包装用紙の種類は商品に由て異なれり袋用として今日最も多く用ゆるは和紙の反古にして壹葉乃至數葉を貼合したるものを以て之に充つ然し此法たる小商人の多用するものに係り運送に供用するものは溢紙にて製したる袋を用ゆ包装には多く洋紙を用る近來此法は漸く増加せり

此法の最も廣く行はるゝは内國向商品にして例へは綿絲製紙乾物類等の包装是なり

第六 樽入法 多く流動体の商品を荷造する方法にして甚だ普通に行はる而して樽の材料は商品により異なれり何となれば樽の材料に使用したる木材性質の如何は内容商品の品質に變化を及ぼすこと往々これあるに由るなり現今盛に使用せらるゝ木材は杉にして酒樽には吉野杉最も名あり然し砂糖の如きは木香を忌むを以て杉材を用ゐず多く樽材を用ゆ而して此方法たる運送途中に於ての破損漏洩を豫防すると同時に重量の輕減を主意とするが故に木材質の水分に堪ゆるの性質を吟味して適用するは勿論其重量の輕微なることに注意を怠る可らず此法による最も多くの商品は酒醬油味噌種油等是なり

第七 壺入法 樽入法と同一の性質を有する商品に應用するものにして矢張り酒類に適用す殊に濕氣若くは他品と接觸することを嫌